

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った
参加型授業に関する実態調査 2015

第一次報告書

木村 充, 山辺 恵理子, 中原 淳

2015年12月16日

東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室

日本教育研究イノベーションセンター

はじめに

本報告書は、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 一般財団法人日本教育研究イノベーションセンター が、2015年7月から9月にかけて共同研究として実施した「高等学校における参加型学習に関する実態調査」（以下、本調査）の調査概要および集計結果をまとめた、第一次報告書である。本調査では、アクティブラーニングと同義で「参加型学習」という言葉を用いている。

本調査は、高等学校におけるアクティブラーニングの現状を、質問紙調査の方法で把握することを目的に実施された。本調査は、高等学校におけるアクティブラーニングに関する大規模調査としては、全国で初めてのものである。

本調査は、1) 学校代表者にお答えいただく調査票、2) 教務主任の先生方にお答えいただく調査票、3) アクティブラーニングを実践なさっている先生方にお答えいただく調査票、合わせて3種類の調査票によって構成されている。これらの調査票を組み合わせることで、高等学校におけるアクティブラーニングの実態に多角的に迫ることを目指している。

本報告書は、調査結果の一部を速報値としてとりまとめたものである。まだ分析の途中ではあるが、一部であってでもできる限り早く結果を報告することを重視した。分析が進み次第、順次結果を公開し、2017年には研究専門書としてまとめる予定である。最終的な報告と本速報値がわずかにずれる可能性があるが、最終的には2017年に出版される研究専門書のデータを利用いただきたい。

本調査が可能となったのは、ご多忙な中で、本調査の趣旨を理解し、回答をお寄せくださった高等学校の先生方の熱意とご協力による。この場をかりて、心から厚く感謝を申し上げたい。また、このたびの調査の趣旨をご理解いただき、さまざまな支援をいただいた一般財団法人日本教育研究イノベーションセンターの皆様、企画趣旨にご賛同いただいた文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室の皆様にも、心より感謝する。本当にありがとうございました。

多くの方々のご理解とご協力の賜物である本調査の結果が、今後の高等学校におけるアクティブラーニングの在り方を考える際の基礎資料として各方面で活用され、高等学校の学びの活性化や改善に寄与することを願う。

2015年12月16日

研究プロジェクトメンバー全員を代表して

東京大学大学総合教育研究センター 中原淳研究室
准教授 中原淳（研究代表者）

調査結果の掲載・引用について

本報告書に掲載されている図版や調査結果の掲載や引用をご希望される場合には、ご自由に引用・転載していただいて構いません。また、引用・転載にあたっては、事前にご連絡をいただく必要はありませんが、必ず以下の【出典記載例】に則って、出典をご明記ください。

【出典記載例】

木村充, 山辺恵理子, 中原淳 (2015). 東京大学ー日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究
高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査 2015:
第一次報告書. <http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/1streport.pdf>

目 次

1. 調査の概要.....	1
1. 調査の概要.....	1
2. 調査の目的.....	2
3. 調査の実施主体.....	2
4. 調査の対象.....	2
5. 調査の方法.....	3
6. 調査票の構成と内容.....	3
7. 回収率.....	4
2. 調査の結果.....	7
1. 回答者の基本属性.....	7
2. 参加型授業への現在の取り組み状況.....	13
3. 教科別の参加型授業への取り組み状況.....	15
4. 都道府県別の参加型授業の推進度.....	18
5. 「アクティブ・ラーニング」という言葉を知ったきっかけ.....	21
6. 「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージ.....	23
7. 参加型授業で取り入れられた学習活動とねらい.....	26
8. 参加型授業の効果.....	31
9. 参加型授業実施上の悩み.....	36
10. 学校種別の参加型授業の実施率や悩み.....	43
11. 研究・重点校指定の有無と参加型授業の実施率や悩み.....	47

1. 調査の概要

本章では、調査の目的や方法など、調査の概要について説明する。

1. 調査の概要

1.1. 調査の目的

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実態の把握

1.2. 調査の方法

郵送法による質問紙調査

1.3. 調査時期

2015年7月～9月

1.4. 調査対象

校長調査：全国の高等学校^(注1)の校長（教頭や教務主任等の学校代表者）

教科主任調査：全国の高等学校の各教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）の教科主任

教員調査：全国の高等学校のアクティブラーニングの視点に立った参加型授業を実施している教員

（注1）普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校（計3,893校）。

1.5. 回収数

回答学校数	2,414校	（対象校数 3,893校、回収率 62.0%）
・校長調査	2,371票	（配布数 3,893票 ^(注2) 、回収率 60.9%）
・教科主任調査	11,486票	（配布数 19,465票 ^(注3) 、回収率 59.0%）
・教員調査	5,177票	（配布数 19,465票 ^(注4) 、回収率 26.6%）

（注2）各学校に1部配布。

（注3）各学校に5部（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）配布。

（注4）各学校に5部配布。アクティブラーニングの視点に立った参加型授業に積極的に取り組んでいる先生が回答。

1.6. 調査項目

・校長調査：

学校の規模、制度、生徒の進路先、学校教育目標、カリキュラム・マネジメントの程度、校内研修の回数と内容、学習環境の整備状況、「アクティブ・ラーニング」のイメージ、参加型学習の実施状況、参加型学習の内容、教科（6教科以外）での参加型学習の実施率 など

・教科主任調査

カリキュラム・マネジメントの程度、「アクティブ・ラーニング」のイメージ、教科での参加型学習の実施状況、科目別参加型学習の実施率、教科での参加型学習の内容 など

・教員調査

教員の属性、担当教科、カリキュラム・マネジメントの程度、「アクティブ・ラーニング」のイメージ、参加型学習の実施状況、参加型学習の内容 など

2. 調査の目的

「高等学校における参加型学習に関する実態調査」（以下、本調査）は、1) 現在、未曾有のスピードで進行する大学改革—とりわけ円滑な高大接続を実現するための基礎資料として、現在の高校の教育実態を「大学」が学ぶこと、2) 学習指導要領の改定をにらんで、現在進んでいる高等学校におけるアクティブラーニングの現状を可視化し、高等学校の関係者の方々に利用して頂くことを目的に、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 日本教育研究イノベーションセンター が、2015年7月から9月にかけて、共同で実施した調査である。

大学改革の議論において、ここ数年、高大接続の重要性が指摘されている。変化の激しい現代社会を「生き抜く」若手層を育成するために、それぞれ個別に存在していた「高校の教育」と「大学の教育」を円滑に接続し、かつ総合的な思考力を見抜く大学入学者選抜を実現することが、社会的に要請されている。本調査は、こうした社会的背景を鑑み、高校の教育のリアルな実態を明らかにし、そこから大学が多くのことを学ぶために企図された。

一方、2014年11月に発表された中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」をきっかけに、全国の高等学校においてアクティブラーニングの視点を取り入れた授業への取り組みが普及しはじめている。この諮問は、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について、育成すべき資質・能力をふまえた教育目標・内容の改善、アクティブラーニングの充実、学習評価の改善などを掲げたものである。新しい学習指導要領では、課題解決能力や主体的学習態度が重視されており、このような知識・技能、態度を身につけるためには、一方的に教師の講義を聴くだけの授業ではなく、生徒による議論や学び合い、発表などを組み込むなど、教育内容・方法の改善が不可欠である。

しかし、高校の教育の実態に関しては、それを正確に把握する手段がこれまで存在していなかった。本調査は、こうした社会的背景を後景とし、高校の教育改革、大学の教育改革、ひいては大学の選抜手法の改革に資する基礎的資料として、社会の多くの関係者に利用されることを願っている。

3. 調査の実施主体

本調査の実施主体は、大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 日本教育研究イノベーションセンター である。調査の方法、調査票の内容の検討などは、両者の協議によって行われた。

4. 調査の対象

本調査の対象は、調査票配布時（2015年7月）に、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校（計3,893校）である。

本調査では、一方的な知識伝達型の講義を聴くだけという受動的な学習を乗り越える意味でのアクティブラーニングに焦点を当てるため、実技や演習等の授業に力を入れてきたと考えられる実業学校は、対象から除外した。また、同様の理由で、6教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）以外の保健体育・芸術・家庭等の教科は対象から除外した。

本調査では、対象となるすべての高等学校を調査する、全数調査を実施した。全数調査は、膨大な費用や手間が生じる一方で、より誤差の少ない結果が得られるというメリットがある。

5. 調査の方法

以上の手続きによって選定された調査対象の高等学校に対して、調査票を郵送した。本調査では、学校代表者による学校全体としてのアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への取り組みの実態、教科ごとの参加型授業への取り組みの実態、参加型授業に取り組んでいる教員のより具体的な取り組みの実態という3つの視点から実態を把握するため、校長調査、教科主任調査、教員調査の3種類の調査票を用意した。調査票は、2015年7月3日に各高等学校に発送された。各学校には、調査票11部（校長調査票1部、教科主任調査票5部、教員調査票5部）に加え、依頼状、文部科学省の賛同文、返送用封筒が同封された。

回収作業は、2015年7月3日の調査開始から、調査票回収の最終締切り期限となった2015年9月30日まで継続された。

調査票の回収は、当初2011年9月4日に締め切ることを予定していたが、調査票の返送が続いたため、最終的に回収期限を9月30日までに延長した。

6. 調査票の構成と内容

調査票の基本的構成と内容は以下の通りである。

○校長調査：

学校の概要、学校の種類や制度、研究・重点校指定の有無、学校規模、生徒の進路先、学校教育目標、教育課程の編成体制、教科連携の有無、カリキュラム・マネジメント、校内研修の回数と内容、学習環境の整備状況、「アクティブ・ラーニング」のイメージ、参加型学習の実施状況、参加型学習のねらい、学習環境や授業方法の工夫、参加型学習の効果、参加型学習の評価方法、参加型学習実施上の困難や課題・不安、参加型学習実施上の困難や課題・不安の克服方法、特徴的な取り組み、教科（6教科以外）での実施率 など

○教科主任調査：

カリキュラム・マネジメント、「アクティブ・ラーニング」のイメージ、参加型学習の実施状況、科目別参加型学習の実施率、参加型学習の内容、参加型学習のねらい、参加型学習の学習活動、学習環境や授業方法の工夫、参加型学習の効果、参加型学習の評価方法、参加型学習実施上の困難や課題・不安、参加型学習実施上の困難や課題・不安の克服方法 など

○教員調査：

性別、年齢、教職経験年数、現任校勤務年数、校務分掌、担当教科、学校教員以外の職業経験、カリキュラム・マネジメント、「アクティブ・ラーニング」のイメージ、参加型学習の内容、参加型学習を始めたきっかけや設計方法、参加型学習のねらい、参加型学習の学習活動、学習環境や授業方法の工夫、参加型学習の効果、参加型学習の評価方法、参加型学習実施上の困難や課題・不安、参加型学習実施上の困難や課題・不安の克服方法 など

高等学校において広まりつつある「アクティブ・ラーニング」という語は、人によって様々なイメージで捉えられていたり、特定の「授業の型」のようなイメージを持たれていたりすることが想定される。本調査では、そのイメージによって回答が偏ることを避けるため、各学校に調査を依頼するに当たり、調査票中では「アクティブラーニング」という語の代わりに「参加型学習」という語を用いた。また、「アクティブラーニング」または「参加型学習」という語について、現在のところ統一された定義があ

るわけではなく、回答者によって思い浮かべるものが異なると考えられるため、本調査では「参加型学習」の定義として図1のような定義を示した。

本報告書では、このような「参加型学習」の視点を取り入れた授業のことを「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」または単に「参加型授業」という語を用いて表現することとした。従って、本報告書で「アクティブラーニング」または「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」という言葉を用いた場合、調査票では「参加型学習」という言葉を用いていたことになる。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち1回でも実施した授業を調査の対象とします。

<p><u>意見発表・交換型</u>： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態</p>	<p>例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング など</p>
<p><u>理解深化型</u>： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態</p>	<p>例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文 など</p>
<p><u>課題解決型</u>： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態</p>	<p>例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習 など</p>

※講義を一方向的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。

※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。

ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

図1 参加型学習の定義

7. 回収率

本調査の対象となる高等学校は、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校（計 3,893 校）である。すべて白紙であった調査票や重複して返送された調査票を除いた有効調査票数を整理した結果、有効な調査票を返送した高等学校の数は 2,414 校であった。都道府県別・設置者別に配布数、回収数、回収率を求めたものが表1、表2である。

表1 都道府県別調査票配布・回収状況

都道府県	配布数	回収数								回収率
		校長	教科主任					教員	合計	
			国語	地歴公民	数学	理科	外国語			
北海道	230	162	157	150	156	155	153	98	162	70.4%
青森県	52	39	39	39	39	38	38	31	39	75.0%
岩手県	59	44	42	43	44	44	43	27	44	74.6%
宮城県	72	53	52	50	53	52	52	35	53	73.6%
秋田県	45	32	31	31	32	31	32	21	33	73.3%
山形県	44	28	28	28	26	28	26	23	28	63.6%
福島県	72	43	42	41	40	40	41	28	43	59.7%
茨城県	104	63	62	61	62	57	61	45	63	60.6%
栃木県	59	42	43	44	44	43	44	32	44	74.6%
群馬県	62	48	48	48	47	47	48	40	49	79.0%
埼玉県	161	95	89	85	95	92	88	73	97	60.2%
千葉県	167	99	97	95	98	100	98	71	103	61.7%
山梨県	35	26	28	27	28	26	27	24	28	80.0%
東京都	363	169	167	159	164	157	161	117	174	47.9%
神奈川県	212	110	107	107	107	103	106	84	111	52.4%
新潟県	85	51	49	49	50	52	50	32	52	61.2%
富山県	40	28	27	26	27	27	27	20	28	70.0%
石川県	40	25	25	25	25	24	24	21	25	62.5%
福井県	23	17	17	17	16	16	16	15	17	73.9%
長野県	77	64	61	61	62	61	63	52	65	84.4%
静岡県	115	82	80	82	80	83	81	63	84	73.0%
愛知県	176	121	108	113	105	107	110	89	122	69.3%
岐阜県	59	40	40	39	40	39	38	33	42	71.2%
三重県	51	38	37	38	37	36	38	28	38	74.5%
滋賀県	48	30	29	29	29	27	30	24	30	62.5%
京都府	83	49	45	47	46	48	46	36	50	60.2%
大阪府	225	110	105	105	103	105	110	81	111	49.3%
兵庫県	171	98	93	91	94	92	93	71	100	58.5%
奈良県	44	24	24	24	23	23	24	15	24	54.5%
和歌山県	33	13	12	11	12	12	11	9	13	39.4%
鳥取県	21	14	15	14	15	15	15	13	15	71.4%
島根県	35	20	20	19	19	19	19	13	20	57.1%
岡山県	59	36	33	33	34	33	34	32	36	61.0%
広島県	111	66	66	63	67	67	64	51	67	60.4%
山口県	55	32	32	30	32	31	32	21	32	58.2%
徳島県	26	16	17	17	17	14	16	16	17	65.4%
香川県	32	16	16	16	16	14	16	11	16	50.0%
愛媛県	54	32	32	32	32	31	32	22	32	59.3%
高知県	30	23	22	20	22	21	22	17	23	76.7%
福岡県	134	80	79	80	80	81	80	62	82	61.2%
佐賀県	28	17	18	18	18	18	18	10	18	64.3%
長崎県	61	34	34	34	34	35	35	20	35	57.4%
熊本県	57	27	25	25	24	23	25	19	27	47.4%
大分県	42	27	27	25	28	25	27	19	28	66.7%
宮崎県	34	20	21	20	21	21	20	13	21	61.8%
鹿児島県	63	40	41	42	40	42	42	26	42	66.7%
沖縄県	44	28	27	25	29	29	27	23	31	70.5%
合計	3,893	2,371	2,309	2,278	2,312	2,284	2,303	1,726	2,414	62.0%

単位（校）

表2 学校設置者別調査票配布・回収状況

設置者	配布数	回収数	回収率
国立	17	9	52.9%
都道府県立	2,491	1,676	67.3%
その他公立	118	81	68.6%
私立	1,267	648	51.1%
合計	3,893	2,414	62.0%

単位（校）

最終回収率である62.0%という数字は、学校を対象とする調査の回収率としては際立って高い数字と言え、全国の高等学校の教員のアクティブラーニングへの関心の高さがうかがえる。一方で、調査票に

回答した学校は、アクティブラーニングに少なからず関心を持つ学校に偏っていると考えられるため、結果の解釈については、一定のバイアスを伴う可能性があることに、慎重に配慮することが求められるだろう。

とはいえ、本調査は、高等学校におけるアクティブラーニングに関する大規模な調査としては前例のない調査であるだけに、62.0%の有効調査票を回収できたことは、大きな成果であったと言える。

2. 調査の結果

本章では、速報値として、2015年12月1日時点のデータを分析した結果を報告する。

1. 回答者の基本属性

「1. 調査の概要」で示したように、本調査の有効回答数の合計は2,414校で、そのうち校長調査に回答した学校は2,371校であった。

本節では、校長調査の結果から、回答した学校の基本属性を示す。

1.1. 設置者

学校の設置者は、国立が9校、都道府県立が1,644校、市立が74校、町立が5校、組合立が1校、私立が638校であった。回答の全体の傾向を捉えやすくするため、以後の分析には、市立・町立・組合立を合わせて「その他公立」に再分類した項目を用いる。

表3 学校の設置者

設置者	度数	パーセント
国立	9	0.4
都道府県立	1,644	69.3
市立	74	3.1
町立	5	0.2
組合立	1	0.0
私立	638	26.9
合計	2,371	100.0

(注) 校長調査の結果による。

1.2. 男女共学・別学

男女共学・別学について、共学校が2,145校、男子校が70校、女子校が150校、男子校・女子校併設校が1校であった。

表4 男女共学・別学

男女共学・別学	度数	パーセント
共学校	2,145	90.7
男子校	70	3.0
女子校	150	6.3
男子校・女子校併設	1	0.0
有効回答数	2,366	100.0
無回答	5	
合計	2,371	

(注) 校長調査の結果による。

1.3. 中学校・大学との接続

中学校・大学との接続について、単独設置校は1,803校、中高一貫教育校は393校、中等教育学校は33校、大学の附属校は153校であった。

表5 中学校・大学との接続

中学校・大学との接続	度数	パーセント
単独設置校	1,803	77.2
中高一貫教育校	393	16.8
中等教育学校	33	1.4
大学附属校	153	6.6
その他	104	4.5
有効回答数	2,334	100.0
無回答	37	
合計	2,371	

(注) 1. 校長調査の結果による。

2. 中学校及び大学との接続について、「単独設置校である」「中高一貫教育校である」「中等教育学校である」「大学の附属校である」「その他（具体的に）」の選択肢から、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

1.4. 学期制

学期制について、二学期制が654校、三学期制が1,678校、四学期制が26校、その他（一学期制、五学期制など）が7校であった。

表6 学期制

学期制	度数	パーセント
二学期制	654	27.7
三学期制	1,678	71.0
四学期制	26	1.1
その他	7	0.3
有効回答数	2,365	100.0
無回答	6	
合計	2,371	

(注) 1. 校長調査の結果による。

2. 学期制について、「二学期制」「三学期制」「四学期制」「その他（具体的に）」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

1.5. 研究指定・重点校指定

研究指定・重点校指定の有無について、文部科学省の研究指定を受けているか、文部科学省以外の研究指定・重点校指定を受けているかを尋ねた。文部科学省の研究指定については、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）145校（6.1%）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）85校（3.6%）、教育課程研究指定事業27校（1.1%）、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）13校（0.5%）、道徳教育実践研究事業9校（0.4%）、学力向上実践研究推進事業5校（0.2%）、その他139校（5.9%）、指定なし1986校（83.8%）であった。

また、文部科学省以外による研究指定・重点校指定については、学力向上推進事業196校（8.3%）、キャリア教育・進路・進学・就職指導等推進事業107校（4.5%）、地域連携推進事業59校（2.5%）、ものづくり人材育成事業8校（0.3%）、特別支援教育推進事業22校（0.9%）、その他271校（11.4%）、指定なし1794校（75.7%）であった。

表7 文部科学省による研究指定

文科省による指定	度数	パーセント
スーパーサイエンスハイスクール	145	6.1
スーパーグローバルハイスクール	85	3.6
教育課程研究指定事業	27	1.1
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト	13	0.5
道徳教育実践研究事業	9	0.4
学力向上実践研究推進事業	5	0.2
その他	139	5.9
指定なし	1,986	83.8
有効回答数	2,371	100.0
合計	2,371	

- (注) 1. 校長調査の結果による。
2. 文部科学省の研究指定について、「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP)」「学力向上実践研究推進事業」「地域産業の担い手育成プロジェクト」「道徳教育実践研究事業」「教育課程研究指定事業」「その他 (具体的に)」の選択肢から、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた (複数選択)。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

表8 文部科学省以外による研究指定・重点校指定

文科省以外による指定	度数	パーセント
学力向上推進事業	196	8.3
キャリア教育・進路・進学・就職指導等推進事業	107	4.5
地域連携推進事業	59	2.5
ものづくり人材育成事業	8	0.3
特別支援教育推進事業	22	0.9
その他	271	11.4
指定なし	1,794	75.7
有効回答数	2,371	100.0
合計	2,371	

- (注) 1. 校長調査の結果による。
2. 文部科学省以外による研究指定・重点校指定について、「学力向上推進事業」「キャリア教育・進路指導・進学指導・就職指導等推進事業」「地域連携推進事業」「ものづくり人材育成事業」「特別支援教育推進事業」「その他 (具体的に)」の選択肢から、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた (複数選択)。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

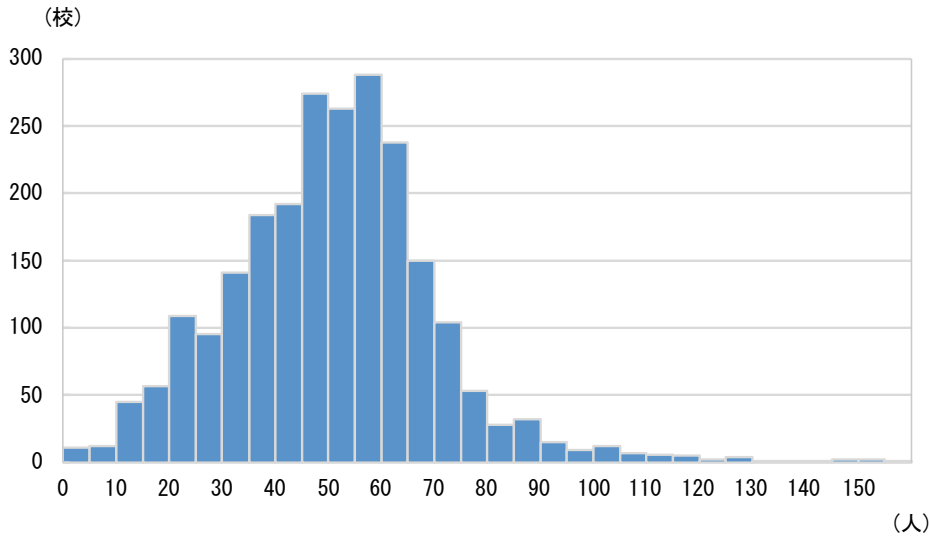
1.6. 教員数

各学校に勤務する常勤・非常勤教員 (校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、講師、養護教諭、実習助手など) 数を尋ねた。その結果、一校当たりの常勤教員数は 51.3 名であり、非常勤教員数は 12.5 名であった。一校当たりの教員数のヒストグラムを図 2、図 3 に示した。

表9 一校当たりの教員数

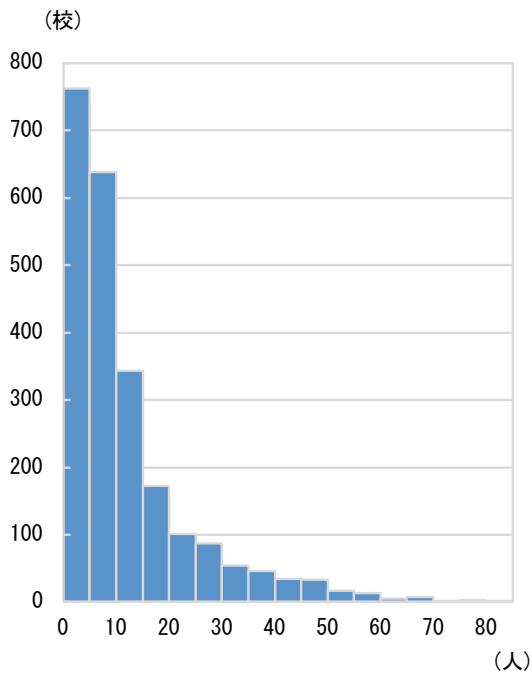
項目	有効回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
常勤教員数	2,344	1	192	51.3	20.04
非常勤教員数	2,319	0	84	12.5	12.50

(注) 校長調査の結果による。



(注) 校長調査の結果による。有効回答数は2,344。

図2 一校当たりの常勤本務教員数



(注) 校長調査の結果による。有効回答数は2,319。

図3 一校当たりの非常勤教員数

1.7. 設置学科、学級数、生徒数

設置学科、学級数、生徒数について、各学校に設置されている学科にあてはまるものをすべて選び(複数選択)、各学科の2015年度の第1学年の学級数と生徒数(2015年4月の入・進学者数)を答えてもらう形式で尋ねた。その結果、2,371校の中で普通科を設置している学校は2,158校(91.1%)であり、

総合学科を設置している学校は200校(8.4%)であった。結果を表10に示した。なお、学級数や生徒数が「0」である学校があるのは、統合、閉校などにより第1学年の学級数や生徒数がゼロであるためである。

表10 設置学科、学級数、生徒数

学科名	設置学科	学級数			
	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
普通科	2,158	0	47	6.0	3.32
総合学科	200	1	9	4.4	1.83
農業科	59	1	5	1.7	0.97
工業科	77	1	10	2.6	2.03
商業科	154	0	7	1.9	1.16
水産科	7	1	2	1.3	0.52
家庭科	91	0	4	1.4	0.72
看護科	32	1	5	1.4	0.84
情報科	11	1	3	1.5	0.82
福祉科	30	1	2	1.1	0.35
理数科	134	1	12	1.4	1.23
外国語科	50	0	9	1.5	1.30
国際科	44	1	12	2.1	1.93
芸術科	44	0	3	1.1	0.55
体育科	33	1	6	1.7	1.01
その他1	91	0	9	2.4	1.86
その他2	4	1	2	1.8	0.50
有効回答数	2,368				
無回答	3				
合計	2,371				

単位(校)

単位(学級)

続き

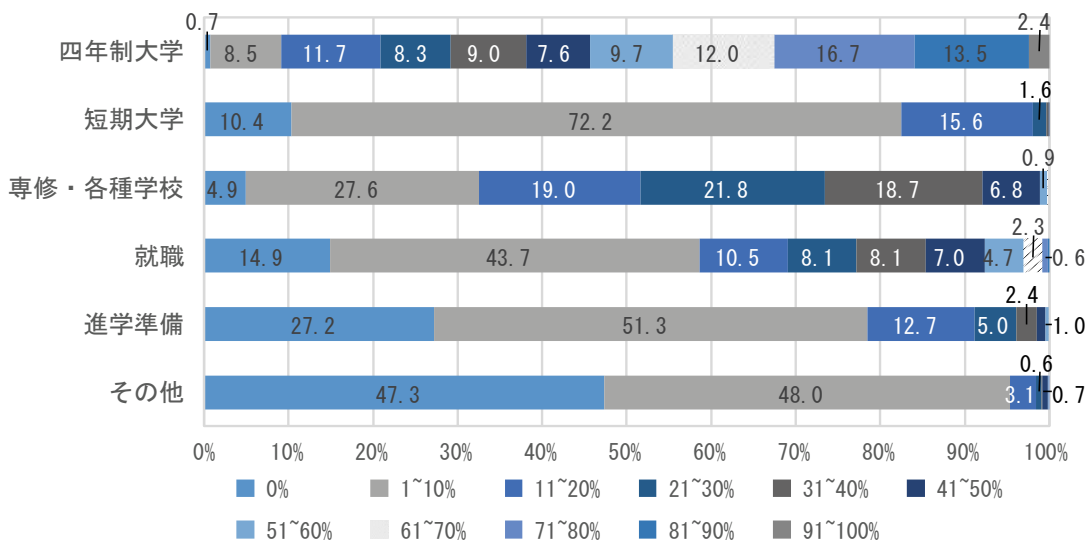
学科名	生徒数			
	最小値	最大値	平均値	標準偏差
普通科	0	1,315	219.6	128.41
総合学科	19	321	163.0	75.80
農業科	14	200	55.6	37.47
工業科	19	472	100.1	90.13
商業科	0	274	66.7	46.87
水産科	15	57	35.6	17.29
家庭科	0	127	49.7	25.75
看護科	24	210	53.5	38.75
情報科	14	113	47.9	27.88
福祉科	6	99	38.5	22.49
理数科	1	480	57.2	51.40
外国語科	0	327	56.8	48.90
国際科	6	480	77.2	78.83
芸術科	0	122	37.3	27.59
体育科	22	245	66.6	41.97
その他1	0	320	81.9	70.98
その他2	41	68	54.0	13.49

単位(人)

- (注) 1. 校長調査の結果による。
 2. 設置学科について、「普通科」「総合学科」「農業に関する学科」「工業に関する学科」「商業に関する学科」「水産に関する学科」「家庭に関する学科」「看護に関する学科」「情報に関する学科」「福祉に関する学科」「理数に関する学科」「外国語に関する学科」「国際に関する学科」「芸術に関する学科」「体育に関する学科」の選択肢から、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた(複数選択)。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。
 4. 「その他」には、「普通科」から「体育科」までの選択肢に当てはまらない独自の学科名が記入されている。

1.8. 生徒の卒業後の進路先

各学校の生徒の卒業後の進路先について、進路別の人数を尋ねた。回答を集計し、進路別の割合を求めたものを図4、表11に示した。



(注) 校長調査の結果による。

図4 生徒の卒業後の進路

表11 生徒の卒業後の進路先

階級	四年制大学		短期大学		専修・各種学校	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
0%	15	0.7	234	10.4	111	4.9
1~10%	191	8.5	1,630	72.2	624	27.6
11~20%	265	11.7	352	15.6	430	19.0
21~30%	187	8.3	35	1.6	493	21.8
31~40%	203	9.0	5	0.2	422	18.7
41~50%	171	7.6	2	0.1	153	6.8
51~60%	219	9.7			20	0.9
61~70%	272	12.0			5	0.2
71~80%	376	16.7				
81~90%	304	13.5				
91~100%	55	2.4				
有効回答数	2,258	100.0	2,258	100.0	2,258	100.0
無回答・無効回答	113		113		113	
合計	2,372		2,372		2,372	

続き

階級	就職		進学準備		その他	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
0%	336	14.9	615	27.2	1,069	47.3
1~10%	987	43.7	1,158	51.3	1,084	48.0
11~20%	237	10.5	286	12.7	70	3.1
21~30%	184	8.1	112	5.0	14	0.6
31~40%	183	8.1	54	2.4	2	0.1
41~50%	158	7.0	23	1.0	16	0.7
51~60%	105	4.7	8	0.4	2	0.1
61~70%	51	2.3	2	0.1	0	0.0
71~80%	14	0.6			1	0.0
81~90%	3	0.1				
91~100%						
有効回答数	2,258	100.0	2,258	100.0	2,258	100.0
無回答・無効回答	113		113		113	
合計	2,372		2,372		2,372	

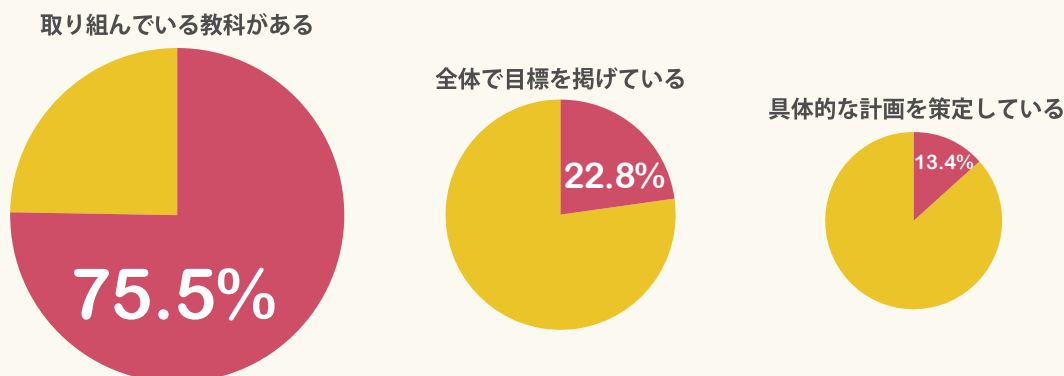
(注) 1. 校長調査の結果による。

2. 生徒の進路先について実数を尋ね、合計人数に対する進路別の人数の割合を階級別に示した。

2. 参加型授業への現在の取り組み状況

ALの視点に立った参加型授業の実施率

アクティブラーニング (AL) の視点に立った参加型授業に取り組んでいる教科があると答えた高校は全体の75.5%。
一方、学校全体として目標を掲げている高校は22.8%
具体的な計画を策定している高校は13.4%に留まった。



※ 校長調査の結果による

木村充, 山辺恵理子, 中原淳 (2015). 東京大学-日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究. 高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査: 第一次報告書. <http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/1streport.pdf>

校長調査における学校全体でのアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在（回答時）の取り組み状況について、「教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある」と回答した高校は75.5%であり、多くの学校でアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への取り組みが広がっていることがうかがえる。一方で、この結果は、アクティブラーニングの視点に立った授業を全授業のうち1回も実施していない学校が24.5%あると考えることもでき、この結果を単純に肯定的に捉えることはできないだろう。

また、「学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている」「参加型学習に関する具体的な計画を策定している」と回答した高校は、それぞれ22.8%、13.4%に留まり、学校全体として推進する体制は整っておらず、それぞれの教科・教員が個別に取り組んでいる現状がうかがえる。

その他、「学年団としてアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に取り組んでいる学年がある」（16.2%）、「アクティブラーニングの内容を含む校内研修を行っている」（29.3%）、「教員に対しアクティブラーニングに関する校外研修や勉強会への参加を推奨している」（46.1%）、「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている」（29.8%）であった。

学校としてのアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への取り組み状況について、これまで取り組んできたか、これから取り組む予定があるかを尋ねた結果では、「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」「すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である」「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」を合計した「参加型授業にすでに取り組んでいる」という回答は、全体の56.6%であった。半数強の学校が、学校としてアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に取り組んでいると認識していると考えられる。また、「ここ数年間で取り組むことを検討している」「ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である」「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」を合計した「現状よりも取り組みを拡大する予定」で

あるという回答は、全体の 73.1%であった。今後、アクティブラーニングへの取り組みが高等学校で広がっていく傾向にあると考えられる。

表 12 アクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在の取り組み状況

項目	度数	パーセント
学年団として参加型学習に取り組んでいる学年がある	377	16.2
教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある	1,756	75.5
学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている	530	22.8
参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	312	13.4
参加型学習の内容を含む校内研修を行っている	681	29.3
教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している	1,073	46.1
参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている	694	29.8
有効回答数	2,327	100.0
無回答	44	
合計	2,371	

- (注) 1. 校長調査の結果による。
 2. 現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

表 13 アクティブラーニングの視点に立った参加型授業への今後の取り組み状況

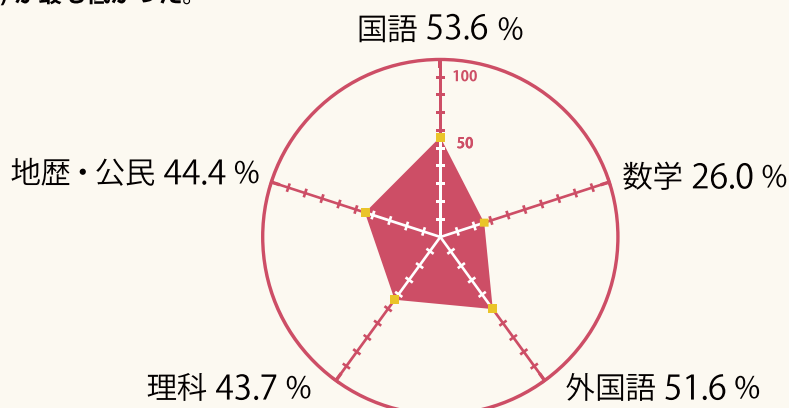
項目	度数	パーセント
今後取り組む見込みはない	22	0.9
ここ数年間で取り組む予定はない	172	7.4
ここ数年間で取り組むことを検討している	697	30.1
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	114	4.9
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	1	0.0
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	427	18.4
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	883	38.1
有効回答数	2,316	100.0
無効回答	13	
無回答	42	
合計	2,371	

- (注) 1. 校長調査の結果による。
 2. 今後の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものを 1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科別の参加型授業への取り組み状況

教科別 A L の視点に立った参加型授業の実施率

A L の視点に立った参加型授業にすでに取り組んでいると回答した学校を教科別にみると、国語 (53.6%) が最も高く外国語 (51.6%)、地歴・公民 (44.4%)、理科 (43.7%) と続き数学 (26.0%) が最も低かった。



※ 教科主任調査の結果による

木村充, 山辺恵理子, 中原淳 (2015). 東京大学-日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究
高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査: 第一次報告書.
<http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/1streport.pdf>

教科主任調査におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への取り組み状況について、これまで取り組んできたか、これから取り組む予定があるかを尋ねた質問への回答を、教科別に集計した。その結果、「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」「すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である」「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」を合計した「すでに取り組んでいる」という回答は、国語が 53.6% で最も高く、外国語 51.6%、地歴・公民 44.4%、理科 43.7% と続き、数学 26.0% で最も低かった。教科によって取り組み状況に差が見られる結果となった。

アクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在の取り組み状況について、「教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている」「教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している」「参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている」という項目についても同様の傾向が見られたが、これらの 3 項目は外国語が最も高く（それぞれ 21.9%、14.4%、20.4%）、数学が最も低かった（それぞれ 8.6%、4.6%、12.5%）。

ただし、各教科の特性等により、本調査の参加型学習の定義に該当しやすい教科もあればそうでない教科もあり、あてはまりやすさには違いがあると考えられる。そのため、この結果を解釈する際には、この結果が一概にどの教科において授業の改善が進んでいる、あるいは改善が進んでいないということを示すものではないことに留意する必要がある。各教科における授業の改善状況等については、今後さらなる分析が必要となるだろう。

表 14 教科別アクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在の取り組み状況

項目	国語		地歴公民		数学	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる	1,721	75.2	1,689	74.8	1,371	59.9
教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている	392	17.1	290	12.8	196	8.6
教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	210	9.2	125	5.5	105	4.6
参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている	393	17.2	337	14.9	287	12.5
有効回答数	2,288	100.0	2,257	100.0	2,287	100.0
無回答	21		21		25	
合計	2,309		2,278		2,312	

続き

項目	理科		外国語		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる	1,462	65.0	1,530	67.5	7,773	68.5
教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている	319	14.2	497	21.9	1,697	15.0
教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	176	7.8	326	14.4	945	8.3
参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている	308	13.7	463	20.4	1,789	15.8
有効回答数	2,248	100.0	2,268	100.0	11,348	100.0
無回答	36		35		138	
合計	2,284		2,303		11,486	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。
 2. 現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

表 15 教科別アクティブラーニングの視点に立った参加型授業への今後の取り組み状況

項目	国語		地歴公民		数学	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
今後取り組む見込みはない	56	2.5	85	3.8	138	6.1
ここ数年間で取り組む予定はない	314	13.8	358	15.9	665	29.2
ここ数年間で取り組むことを検討している	629	27.6	743	33.1	826	36.3
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	57	2.5	63	2.8	54	2.4
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	4	0.2	8	0.4	4	0.2
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	678	29.7	537	23.9	330	14.5
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	541	23.7	452	20.1	258	11.3
有効回答数	2,279	100.0	2,246	100.0	2,275	100.0
無効回答	5		8		8	
無回答	25		24		29	
合計	2,309		2,278		2,312	

続き

項目	理科		外国語		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
今後取り組む見込みはない	70	3.1	28	1.2	377	3.3
ここ数年間で取り組む予定はない	403	17.9	270	11.9	2,010	17.8
ここ数年間で取り組むことを検討している	727	32.3	707	31.2	3,632	32.1
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	66	2.9	92	4.1	332	2.9
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	10	0.4	4	0.2	30	0.3
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	576	25.6	597	26.3	2,718	24.0
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	396	17.6	569	25.1	2,216	19.6
有効回答数	2,248	100.0	2,267	100.0	11,315	100.0
無効回答	2		11		34	
無回答	34		25		137	
合計	2,284		2,303		11,486	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 今後の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

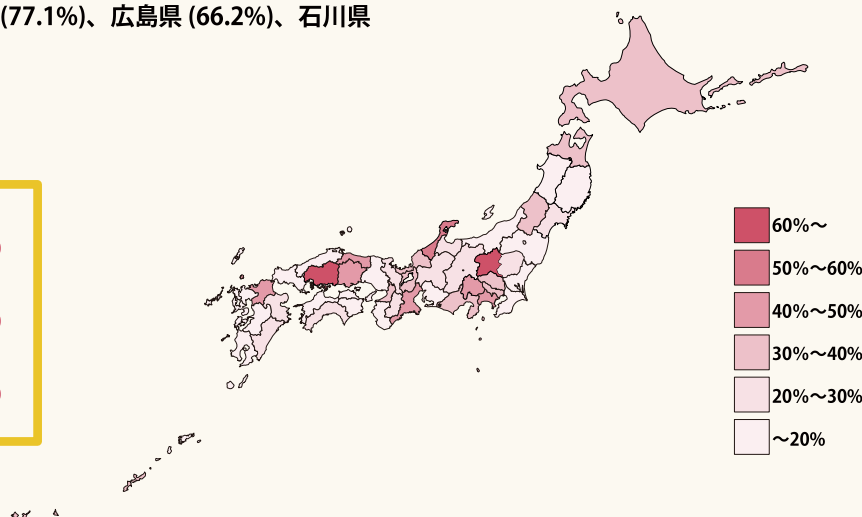
4. 都道府県別の参加型授業の推進度

都道府県別参加型学習に関する校内研修の実施率

ALの視点に立った参加型授業の取り組みへの積極性を都道府県別に見ると、参加型学習の内容を含む校内研修を行っている学校の割合は、群馬県(77.1%)、広島県(66.2%)、石川県(56.0%)が上位であった。



ランキング
群馬県 77.1%
広島県 66.2%
石川県 56.0%



※ 校長調査の結果による

木村充, 山辺恵理子, 中原淳 (2015). 東京大学-日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究. 高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査: 第一次報告書. <http://manabilab.jp/wp-content/uploads/2015/12/1streport.pdf>

参加型学習に関する校内研修の実施や校外研修への参加の奨励の度合いについて、都道府県別に集計した。その結果、「参加型学習の内容を含む校内研修を行っている」と回答した学校の割合は、都道府県で差が見られ、群馬県 77.1%、広島県 66.2%、石川県 56.0%の順に高かった。これらの3県は、「学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている」「参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している」「教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している」「参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている」と回答した学校の割合も高かった。これらの3県は、アクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実施に積極的な都道府県であると言える可能性はあるものの、結果を解釈する際には、各都道府県での回収率のばらつきや、回答した学校の属性等の違いを考慮する必要がある、今後さらなる分析が必要となるだろう。

表 16 都道府県別アクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在の取り組み状況

都道府県	学年団として参加型学習に取り組んでいる学年がある		教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある		学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている		参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している		参加型学習の内容を含む校内研修を行っている	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
北海道	24	14.9	128	79.5	24	14.9	14	8.7	53	32.9
青森県	2	5.1	30	76.9	10	25.6	6	15.4	12	30.8
岩手県	6	13.6	33	75.0	8	18.2	5	11.4	6	13.6
宮城県	5	9.8	38	74.5	13	25.5	4	7.8	11	21.6
秋田県	3	9.4	25	78.1	14	43.8	6	18.8	6	18.8
山形県	2	7.1	21	75.0	4	14.3	5	17.9	11	39.3
福島県	11	26.8	35	85.4	6	14.6	3	7.3	3	7.3
茨城県	10	16.7	49	81.7	8	13.3	3	5.0	7	11.7
栃木県	6	15.4	29	74.4	8	20.5	6	15.4	9	23.1
群馬県	7	14.6	18	37.5	30	62.5	30	62.5	37	77.1
埼玉県	5	5.4	63	68.5	11	12.0	8	8.7	31	33.7
千葉県	19	19.4	75	76.5	8	8.2	3	3.1	16	16.3
山梨県	5	19.2	19	73.1	7	26.9	1	3.8	11	42.3
東京都	38	22.6	131	78.0	52	31.0	21	12.5	66	39.3
神奈川県	15	14.4	79	76.0	45	43.3	18	17.3	46	44.2
新潟県	5	10.0	40	80.0	4	8.0	1	2.0	4	8.0
富山県	9	33.3	23	85.2	5	18.5	7	25.9	7	25.9
石川県	4	16.0	16	64.0	11	44.0	6	24.0	14	56.0
福井県	0	0.0	14	87.5	4	25.0	1	6.3	6	37.5
長野県	8	12.7	50	79.4	7	11.1	7	11.1	18	28.6
静岡県	10	12.5	57	71.3	18	22.5	6	7.5	28	35.0
愛知県	18	14.9	104	86.0	18	14.9	10	8.3	15	12.4
岐阜県	3	7.5	31	77.5	12	30.0	3	7.5	9	22.5
三重県	7	18.9	30	81.1	7	18.9	3	8.1	18	48.6
滋賀県	2	6.9	22	75.9	7	24.1	6	20.7	10	34.5
京都府	7	14.3	39	79.6	10	20.4	3	6.1	13	26.5
大阪府	17	15.7	80	74.1	33	30.6	18	16.7	33	30.6
兵庫県	19	19.6	80	82.5	16	16.5	16	16.5	16	16.5
奈良県	9	39.1	16	69.6	6	26.1	4	17.4	6	26.1
和歌山県	1	7.7	11	84.6	4	30.8	2	15.4	2	15.4
鳥取県	1	7.1	7	50.0	7	50.0	4	28.6	6	42.9
島根県	2	10.0	16	80.0	8	40.0	4	20.0	4	20.0
岡山県	6	16.7	27	75.0	11	30.6	8	22.2	15	41.7
広島県	15	23.1	40	61.5	34	52.3	24	36.9	43	66.2
山口県	8	25.0	28	87.5	4	12.5	2	6.3	6	18.8
徳島県	3	18.8	13	81.3	5	31.3	2	12.5	3	18.8
香川県	4	25.0	13	81.3	0	0.0	1	6.3	1	6.3
愛媛県	9	30.0	26	86.7	3	10.0	2	6.7	2	6.7
高知県	7	30.4	18	78.3	6	26.1	5	21.7	5	21.7
福岡県	11	13.9	47	59.5	18	22.8	11	13.9	32	40.5
佐賀県	3	17.6	10	58.8	1	5.9	2	11.8	2	11.8
長崎県	13	38.2	24	70.6	6	17.6	4	11.8	6	17.6
熊本県	5	21.7	20	87.0	1	4.3	2	8.7	4	17.4
大分県	3	11.1	14	51.9	11	40.7	8	29.6	8	29.6
宮崎県	3	15.0	17	85.0	3	15.0	4	20.0	6	30.0
鹿児島県	6	15.8	31	81.6	1	2.6	2	5.3	5	13.2
沖縄県	1	3.6	19	67.9	1	3.6	1	3.6	9	32.1
合計	377	16.2	1,756	75.5	530	22.8	312	13.4	681	29.3

続き

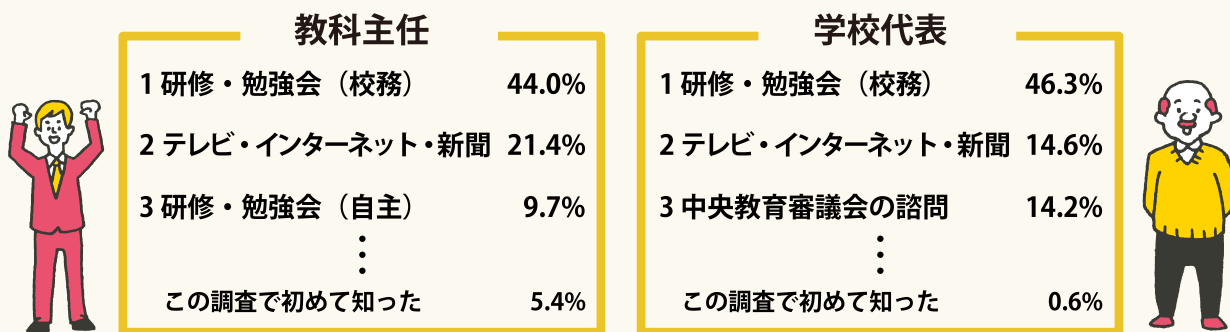
都道府県	教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している		参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている		有効回答数	無回答	合計
	度数	パーセント	度数	パーセント			
北海道	76	47.2	43	26.7	161	1	162
青森県	19	48.7	11	28.2	39	0	39
岩手県	17	38.6	6	13.6	44	0	44
宮城県	20	39.2	6	11.8	51	2	51
秋田県	9	28.1	12	37.5	32	0	32
山形県	16	57.1	9	32.1	28	0	28
福島県	10	24.4	9	22.0	41	2	41
茨城県	23	38.3	10	16.7	60	3	60
栃木県	16	41.0	10	25.6	39	3	39
群馬県	27	56.3	32	66.7	48	0	48
埼玉県	58	63.0	26	28.3	92	3	92
千葉県	40	40.8	24	24.5	98	1	98
山梨県	11	42.3	13	50.0	26	0	26
東京都	101	60.1	66	39.3	168	1	168
神奈川県	64	61.5	40	38.5	104	6	104
新潟県	15	30.0	9	18.0	50	1	50
富山県	10	37.0	7	25.9	27	1	27
石川県	18	72.0	17	68.0	25	0	25
福井県	10	62.5	4	25.0	16	1	16
長野県	38	60.3	23	36.5	63	1	63
静岡県	33	41.3	26	32.5	80	2	80
愛知県	40	33.1	30	24.8	121	0	121
岐阜県	9	22.5	10	25.0	40	0	40
三重県	25	67.6	10	27.0	37	1	37
滋賀県	14	48.3	7	24.1	29	1	29
京都府	22	44.9	15	30.6	49	0	49
大阪府	48	44.4	28	25.9	108	2	108
兵庫県	36	37.1	24	24.7	97	1	97
奈良県	7	30.4	5	21.7	23	1	23
和歌山県	9	69.2	4	30.8	13	0	13
鳥取県	9	64.3	4	28.6	14	0	14
島根県	7	35.0	5	25.0	20	0	20
岡山県	22	61.1	16	44.4	36	0	36
広島県	44	67.7	35	53.8	65	1	65
山口県	11	34.4	10	31.3	32	0	32
徳島県	6	37.5	3	18.8	16	0	16
香川県	5	31.3	3	18.8	16	0	16
愛媛県	6	20.0	2	6.7	30	2	30
高知県	8	34.8	3	13.0	23	0	23
福岡県	40	50.6	29	36.7	79	1	79
佐賀県	4	23.5	3	17.6	17	0	17
長崎県	12	35.3	9	26.5	34	0	34
熊本県	5	21.7	5	21.7	23	4	23
大分県	14	51.9	11	40.7	27	0	27
宮崎県	7	35.0	7	35.0	20	0	20
鹿児島県	13	34.2	8	21.1	38	2	38
沖縄県	19	67.9	5	17.9	28	0	28
合計	1,073	46.1	694	29.8	2,327	44	2,371

- (注) 1. 校長調査の結果による。
 2. 現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

5. 「アクティブ・ラーニング」という言葉を知ったきっかけ

「アクティブ・ラーニング」という言葉を知ったきっかけ

学校代表者・教科主任ともに「校務として参加した研修・勉強会で取り扱われた」というきっかけが最も多く、「テレビ・インターネット・新聞記事で見聞きした」が続いた。学校代表者では「中央教育審議会の諮問を読んだ」というきっかけも多かった。



※ 校長調査、教科主任調査の結果による

木村充, 山辺恵理子, 中原淳 (2015). 東京大学-日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究. 高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査: 第一次報告書. <http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/1streport.pdf>

「アクティブ・ラーニング」という言葉をはじめて知ったきっかけについて、学校代表者では、「校務として参加した研修・勉強会で取り扱われた」（46.3%）が最も高く、「テレビ・インターネット・新聞の記事で見聞きした」（14.6%）、「中央教育審議会の諮問を読んだ」（14.2%）、「雑誌・書籍等の記事で見聞きした」（11.6%）、「自主的に参加した研修・勉強会で取り扱われた」（7.9%）、「知人から聞いた」（2.0%）、「その他」（2.9%）と続いた。「この調査ではじめて知った」は0.6%であった。

教科主任でも、「校務として参加した研修・勉強会で取り扱われた」（44.0%）が最も高く、「テレビ・インターネット・新聞の記事で見聞きした」（21.4%）が続いたが、以下、「自主的に参加した研修・勉強会で取り扱われた」（9.7%）、「雑誌・書籍等の記事で見聞きした」（7.9%）、「知人から聞いた」（4.2%）、「中央教育審議会の諮問を読んだ」（3.9%）、「その他」（3.6%）と続き、「この調査ではじめて知った」も5.4%であった。

学校代表者では「中央教育審議会の諮問を読んだ」（14.2%）の割合が高い一方で、教科主任では「この調査ではじめて知った」（5.4%）の割合が決して低い数字ではなく、学校代表者と教科主任では「アクティブ・ラーニング」という言葉の認知度・理解度に差があると考えられる。

表 17 学校代表者の「アクティブ・ラーニング」という言葉をはじめて知ったきっかけ

項目	度数	パーセント
中央教育審議会の諮問を読んだ	308	14.2
校務として参加した研修・勉強会で取り扱われた	1,005	46.3
自主的に参加した研修・勉強会で取り扱われた	172	7.9
テレビ・インターネット・新聞の記事で見聞きした	316	14.6
雑誌・書籍等の記事で見聞きした	251	11.6
知人から聞いた	44	2.0
その他	62	2.9
この調査ではじめて知った	12	0.6
有効回答数	2,170	100.0
無効回答	192	
無回答	9	
合計	2,371	

- (注) 1. 校長調査の結果による。
 2. 「アクティブ・ラーニング」という言葉をはじめて知ったきっかけについて、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

表 18 教科主任の「アクティブ・ラーニング」という言葉をはじめて知ったきっかけ

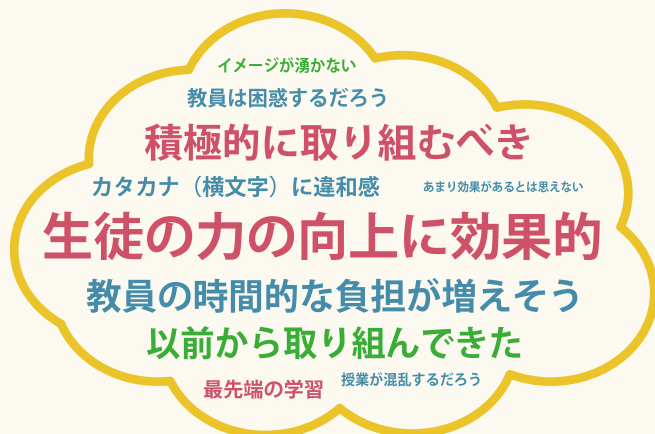
項目	度数	パーセント
中央教育審議会の諮問を読んだ	437	3.9
校務として参加した研修・勉強会で取り扱われた	4,910	44.0
自主的に参加した研修・勉強会で取り扱われた	1,081	9.7
テレビ・インターネット・新聞の記事で見聞きした	2,389	21.4
雑誌・書籍等の記事で見聞きした	877	7.9
知人から聞いた	472	4.2
その他	598	3.6
この調査ではじめて知った	405	5.4
有効回答数	11,169	100.0
無効回答	235	
無回答	82	
合計	11,486	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。
 2. 「アクティブ・ラーニング」という言葉をはじめて知ったきっかけについて、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

6. 「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージ

「アクティブ・ラーニング」に対するイメージ

「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージとして、「生徒の力の向上に効果的な学習である（68.0%）」が最も多く、「積極的に取り組むべき学習である（52.1%）」、「以前から取り組んできた学習である（34.4%）」が続いた。



全体的にポジティブ

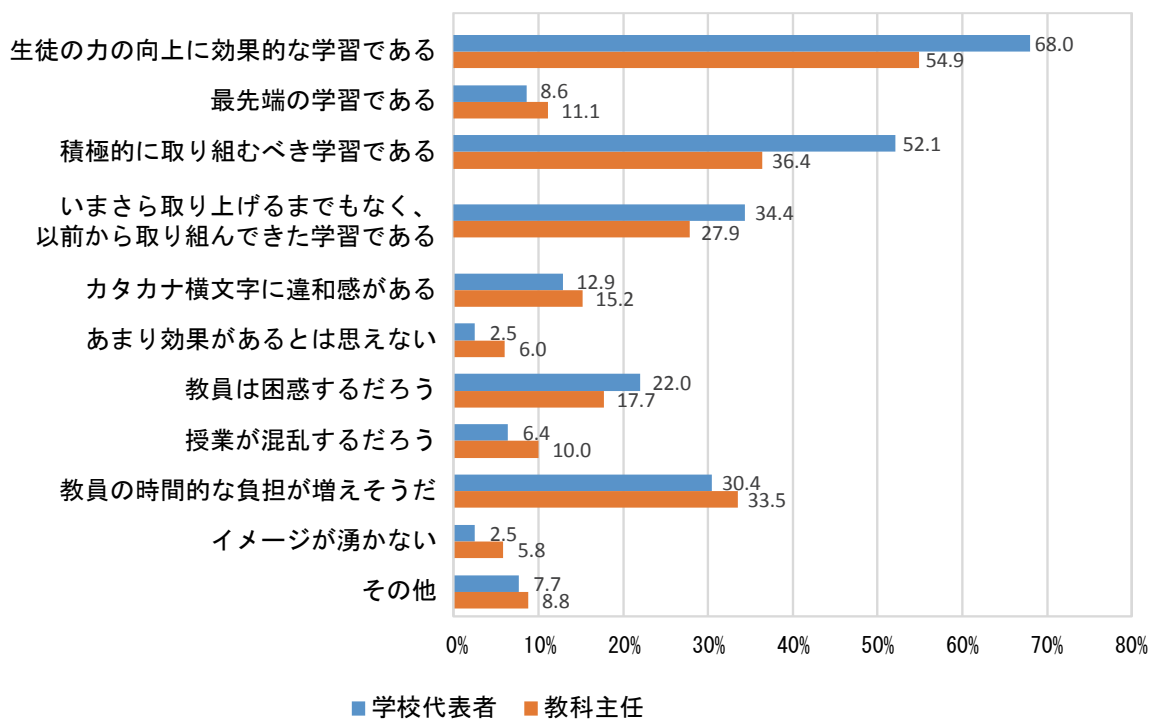
※ 校長調査の結果による

木村充, 山辺恵理子, 中原淳 (2015). 東京大学-日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究. 高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査: 第一次報告書. <http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/1streport.pdf>

「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージについて尋ねたところ、学校代表者では、「生徒の力の向上に効果的な学習である」（68.0%）、「積極的に取り組むべき学習である」（52.1%）が高く、「いまさら取り上げるまでもなく、以前から取り組んできた学習である」（34.4%）、「教員の時間的な負担が増えそうだ」（30.4%）、「教員は困惑するだろう」（22.0%）、「カタカナ横文字に違和感がある」（12.9%）、「最先端の学習である」（8.6%）、「授業が混乱するだろう」（6.4%）、「あまり効果があるとは思えない」（2.5%）、「イメージが湧かない」（2.5%）、「その他」（7.7%）というイメージであった。

教科主任でも、同様に「生徒の力の向上に効果的な学習である」（54.9%）が最も高く、「積極的に取り組むべき学習である」（36.4%）、「教員の時間的な負担が増えそうだ」（33.5%）、「いまさら取り上げるまでもなく、以前から取り組んできた学習である」（27.9%）、「教員は困惑するだろう」（17.7%）、「カタカナ横文字に違和感がある」（15.2%）、「最先端の学習である」（11.1%）、「授業が混乱するだろう」（10.0%）、「あまり効果があるとは思えない」（6.0%）、「イメージが湧かない」（5.8%）、「その他」（8.8%）と続いた。

全般的に、「アクティブ・ラーニング」という言葉にはポジティブなイメージを持っており、学校代表者の方が教科主任よりも、よりポジティブなイメージを持っていた。



(注) 1. 校長調査、教科主任調査の結果による。

図5 「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージ

表19 学校代表者の「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージ

項目	度数	パーセント
生徒の力の向上に効果的な学習である	1,576	68.0
最先端の学習である	199	8.6
積極的に取り組むべき学習である	1,208	52.1
いまさら取り上げるまでもなく、以前から取り組んできた学習である	797	34.4
カタカナ横文字に違和感がある	299	12.9
あまり効果があるとは思えない	57	2.5
教員は困惑するだろう	511	22.0
授業が混乱するだろう	149	6.4
教員の時間的な負担が増えそう	705	30.4
イメージが湧かない	57	2.5
その他	179	7.7
有効回答数	2,319	100.0
非該当	12	
無回答	40	
合計	2,371	

(注) 1. 校長調査の結果による。

2. 「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージについて、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた(複数選択)。
3. 複数選択であるため合計は100%ではない。
4. 「アクティブ・ラーニング」という言葉を知らない場合は非該当とした。

表 20 教科主任の「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージ

項目	国語		地歴公民		数学	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
生徒の力の向上に効果的な学習である	1,180	54.3	1,133	53.1	1,106	52.6
最先端の学習である	245	11.3	255	12.0	220	10.5
積極的に取り組むべき学習である	785	36.1	763	35.8	673	32.0
いまさら取り上げるまでもなく、以前から取り組んできた学習である	771	35.5	594	27.8	470	22.4
カタカナ横文字に違和感がある	468	21.5	392	18.4	259	12.3
あまり効果があるとは思えない	113	5.2	145	6.8	163	7.8
教員は困惑するだろう	352	16.2	417	19.5	433	20.6
授業が混乱するだろう	168	7.7	246	11.5	230	10.9
教員の時間的な負担が増えそうだ	671	30.9	820	38.4	752	35.8
イメージが湧かない	101	4.6	114	5.3	169	8.0
その他	191	8.8	192	9.0	180	8.6
有効回答数	2,173	100.0	2,133	100.0	2,101	100.0
非該当	118		107		168	
無回答	18		38		43	
合計	2,309		2,278		2,312	

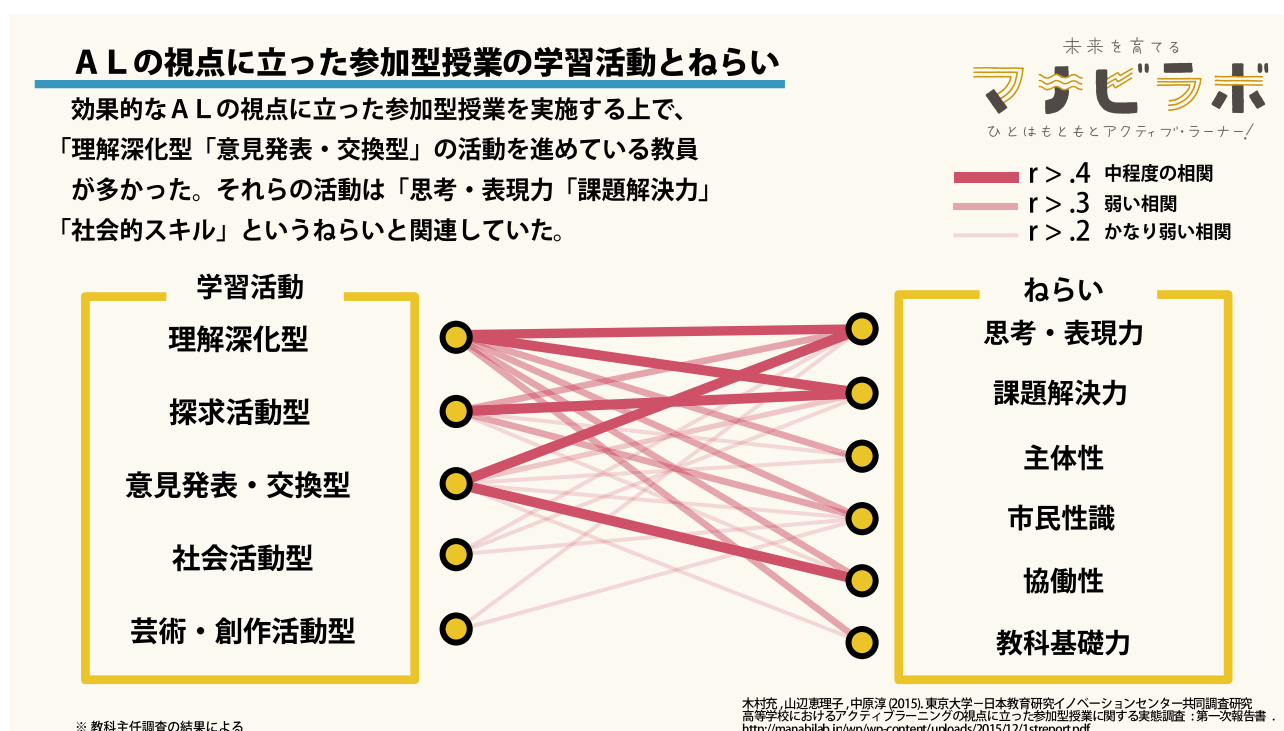
続き

項目	理科		外国語		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
生徒の力の向上に効果的な学習である	1,174	55.2	1,278	58.9	5,871	54.9
最先端の学習である	192	9.0	274	12.6	1,186	11.1
積極的に取り組むべき学習である	701	33.0	973	44.9	3,895	36.4
いまさら取り上げるまでもなく、以前から取り組んできた学習である	600	28.2	548	25.3	2,983	27.9
カタカナ横文字に違和感がある	312	14.7	195	9.0	1,626	15.2
あまり効果があるとは思えない	124	5.8	95	4.4	640	6.0
教員は困惑するだろう	379	17.8	317	14.6	1,898	17.7
授業が混乱するだろう	220	10.3	208	9.6	1,072	10.0
教員の時間的な負担が増えそうだ	763	35.9	576	26.6	3,582	33.5
イメージが湧かない	110	5.2	131	6.0	625	5.8
その他	205	9.6	170	7.8	938	8.8
有効回答数	2,127	100.0	2,169	100.0	10,703	100.0
非該当	113		92		598	
無回答	44		42		185	
合計	2,284		2,303		11,486	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージについて、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた(複数選択)。
3. 複数選択であるため合計は100%ではない。
4. 「アクティブ・ラーニング」という言葉を知らない場合は非該当とした。

7. 参加型授業で取り入れられた学習活動とねらい



効果的な参加型授業を進める上で、教科として力を入れて取り組んでいる学習活動について、「1. 取り組んでいない」から「4. とても力を入れて取り組んでいる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。4段階のリッカート尺度とみなして回答を1～4点で得点化し、集計を行った。その結果、「教員による思考の活性化を促す説明や解説」（M=2.50, SD=0.884）、「生徒による発表（プレゼンテーション）」（M=2.49, SD=0.892）、「生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）」（M=2.36, SD=0.882）、「生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）」（M=2.31, SD=0.866）、「学習について自分で客観的にふりかえる活動」（M=2.24, SD=0.804）などの活動が上位であった。一方、「音楽や美術などの芸術活動」（M=1.13, SD=0.415）、「演劇やダンスなどの身体活動」（M=1.13, SD=0.432）、「地域の課題解決やボランティアなど、地域の人の役に立つ活動」（M=1.26, SD=0.612）、「博物館など、学校外の施設で調べる活動」（M=1.34, SD=0.678）、「インタビューや観察、アンケート調査をして調べる活動」（M=1.35, SD=0.676）などが下位であった。因子分析の結果、これらの学習活動は、「理解深化型」「探求活動型」「意見発表・交換型」「社会活動型」「芸術・創作活動型」の5つに大きく分類できた。

また、参加型授業を通して生徒が身につけることをねらっている力について、「1. あまり重視していない」から「5. とても重視している」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。その結果、「自分の考えを言語で表現する力」（M=4.34, SD=0.759）、「主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力」（M=4.15, SD=0.878）、「各教科で身につけた知識・技能を活用する力」（M=4.14, SD=0.842）、「何事にも積極的に取り組む意欲」（M=4.13, SD=0.843）、「自分の考えを深める思考力」（M=4.09, SD=0.851）が上位であった。一方、「勤労観や職業観」（M=2.77, SD=1.109）、「社会の一員としての市民性意識」（M=2.91, SD=1.153）、「これまでにない発想をしようとする創造性」（M=3.30, SD=1.07）、「社会変化に対応できる柔軟性」（M=3.38, SD=1.089）が下位であった。因子分

析の結果、これらのねらいは「思考・表現力」「課題解決力」「主体性」「市民性」「協働性」「教科基礎力」の6つに大きく分類できた。

以上のような学習活動がどのようなねらいから取り入れられているのかについて、両者の関連を検討するため、相関分析を行った。その結果、効果的な参加型授業の学習活動として多くの学校で力を入れて取り入れられていた「理解深化型」「意見発表・交換型」の活動は、「思考・表現力」「課題解決力」「協働性」といったねらいとの間の相関係数がいずれも $r > .4$ を超えており、中程度の関連を示していた。一方で、「教科基礎力」というねらいは、平均値は低くないものの、他のねらいと比べて全般的に学習活動との関連が低かった。「教科で身につけた知識・技能の活用」や、「教科を超えた知識や理解の統合」をねらった授業設計は、アクティブラーニングによる授業改善の鍵であると考えられ、このようなねらいを意識して学習活動を設計することが重要となるだろう。

表 21 アクティブラーニングの視点に立った参加型授業の学習活動

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
理解深化型						
学習について自分で客観的にふりかえる活動	4,771	2.24	0.804	6,389	326	11,486
データの整理・分析やレポートなどのまとめ活動	4,787	2.20	0.888	6,389	310	11,486
まとめのプリントや壁新聞などをつくる活動	4,774	1.81	0.863	6,389	323	11,486
生徒同士がお互いに評価し合う活動	4,788	2.03	0.856	6,389	309	11,486
教員による思考の活性化を促す説明や解説	4,782	2.50	0.884	6,389	315	11,486
探求活動型						
個人でテーマを調べる活動	4,788	1.99	0.920	6,389	309	11,486
グループでテーマを調べる活動	4,788	2.04	0.942	6,389	309	11,486
教員が生徒にテーマを与えて調べる活動	4,789	2.21	0.837	6,389	308	11,486
生徒が自分でテーマを設定して調べる活動	4,779	1.86	0.913	6,389	318	11,486
図書館などで書物や論文などの資料を調べる活動	4,789	1.83	0.872	6,389	308	11,486
コンピュータなどの機器を用いて調べる活動	4,787	1.97	0.890	6,389	310	11,486
意見発表・交換型						
生徒同士の討論（ディベート）	4,770	1.72	0.852	6,389	327	11,486
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	4,793	2.31	0.866	6,389	304	11,486
生徒による発表（プレゼンテーション）	4,799	2.49	0.892	6,389	298	11,486
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	4,789	2.36	0.882	6,389	308	11,486
社会活動型						
博物館など、学校外の施設で調べる活動	4,786	1.34	0.678	6,389	311	11,486
実験室などでの実験や観察	4,783	1.50	0.954	6,389	314	11,486
インタビューや観察、アンケート調査をして調べる活動	4,786	1.35	0.676	6,389	311	11,486
地域の課題解決やボランティアなど、地域の人の役に立つ活動	4,783	1.26	0.612	6,389	314	11,486
外部講師による講演や活動	4,779	1.59	0.883	6,389	318	11,486
自然体験・社会体験活動	4,772	1.38	0.743	6,389	325	11,486
他校の生徒や地域の人など学校外の人との交流活動	4,766	1.38	0.735	6,389	331	11,486
芸術・創作活動型						
演劇やダンスなどの身体活動	4,782	1.13	0.432	6,389	315	11,486
音楽や美術などの芸術活動	4,782	1.13	0.415	6,389	315	11,486
写真や映像などを用いた創作活動	4,776	1.38	0.683	6,389	321	11,486

続き

項目	とても力を入れて取り入れている	力を入れて取り入れている	取り入れている	取り入れていない
理解深化型				
学習について自分で客観的にふりかえる活動	370	1,141	2,523	737
データの整理・分析やレポートなどのまとめ活動	460	1,097	2,191	1,039
まとめのプリントや壁新聞などをつくる活動	234	703	1,739	2,098
生徒同士がお互いに評価し合う活動	328	839	2,261	1,360
教員による思考の活性化を促す説明や解説	769	1,368	2,144	501
探求活動型				
個人でテーマを調べる活動	406	775	1,951	1,656
グループでテーマを調べる活動	465	829	1,926	1,568
教員が生徒にテーマを与えて調べる活動	420	1,040	2,476	853
生徒が自分でテーマを設定して調べる活動	333	705	1,704	2,037
図書館などで書物や論文などの資料を調べる活動	286	630	1,871	2,002
コンピュータなどの機器を用いて調べる活動	361	744	2,079	1,603
意見発表・交換型				
生徒同士の討論（ディベート）	235	542	1,639	2,354
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	511	1,240	2,268	774
生徒による発表（プレゼンテーション）	779	1,324	2,165	531
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	595	1,240	2,239	715
社会活動型				
博物館など、学校外の施設で調べる活動	111	230	833	3,612
実験室などでの実験や観察	414	335	477	3,557
インタビューや観察、アンケート調査をして調べる活動	108	222	919	3,537
地域の課題解決やボランティアなど、地域の人役に立つ活動	84	182	639	3,878
外部講師による講演や活動	270	474	1,043	2,992
自然体験・社会体験活動	161	273	778	3,560
他校の生徒や地域の人など学校外の人との交流活動	154	263	815	3,534
芸術・創作活動型				
演劇やダンスなどの身体活動	35	79	339	4,329
音楽や美術などの芸術活動	22	80	385	4,295
写真や映像などを用いた創作活動	96	264	991	3,425

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 効果的な参加型授業を進める上で、教科として力を入れて取り組んでいる学習活動について、「1. 取り入れていない」「2. 取り入れている」「3. 力を入れて取り入れている」「4. とても力を入れて取り入れている」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 22 アクティブラーニングの視点に立った参加型授業のねらい

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
思考・表現力						
自分の考えを言語で表現する力	4,800	4.34	0.759	6,389	297	11,486
これまでにない発想をしようとする創造性	4,789	3.30	1.070	6,389	308	11,486
自分の考えを深める思考力	4,786	4.09	0.851	6,389	311	11,486
課題解決力						
課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	4,795	3.67	1.021	6,389	302	11,486
自分で情報を収集し、分析し、整理する力	4,797	3.86	0.948	6,389	300	11,486
課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	4,795	3.92	0.945	6,389	302	11,486
主体性						
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	4,787	3.79	0.995	6,389	310	11,486
何事にも積極的に取り組む意欲	4,796	4.13	0.843	6,389	301	11,486
他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	4,798	4.02	0.878	6,389	299	11,486
市民性						
勤労観や職業観	4,790	2.77	1.109	6,389	307	11,486
社会の一員としての市民性意識	4,789	2.91	1.153	6,389	308	11,486
社会変化に対応できる柔軟性	4,793	3.38	1.089	6,389	304	11,486
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	4,789	3.43	1.141	6,389	308	11,486
協働性						
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	4,798	4.15	0.878	6,389	299	11,486
他者と協力するための社会性や協調性	4,796	4.04	0.912	6,389	301	11,486
教科基礎力						
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	4,793	3.95	1.022	6,389	304	11,486
各教科で身につけた知識・技能を活用する力	4,796	4.14	0.842	6,389	301	11,486
教科を超えた知識や理解の統合	4,787	3.47	1.075	6,389	310	11,486
文章などを正確に読み解く力	4,786	3.90	0.962	6,389	311	11,486

続き

項目	とても重視している	重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない
思考・表現力					
自分の考えを言語で表現する力	2,365	1,838	493	92	12
これまででない発想をしようとする創造性	683	1,415	1,589	878	224
自分の考えを深める思考力	1,714	2,012	860	174	26
課題解決力					
課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	1,122	1,733	1,289	552	99
自分で情報を収集し、分析し、整理する力	1,309	1,976	1,085	365	62
課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	1,480	1,889	1,028	356	42
主体性					
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	1,287	1,782	1,205	430	83
何事にも積極的に取り組む意欲	1,808	1,993	806	167	22
他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	1,570	2,040	926	231	31
市民性					
勤労観や職業観	326	921	1,482	1,439	622
社会の一員としての市民性意識	452	1,069	1,446	1,255	567
社会変化に対応できる柔軟性	755	1,609	1,391	797	241
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	930	1,543	1,260	786	270
協働性					
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	1,992	1,812	771	191	32
他者と協力するための社会性や協調性	1,730	1,864	911	252	39
教科基礎力					
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	1,714	1,709	928	321	121
各教科で身につけた知識・技能を活用する力	1,834	2,031	734	169	28
教科を超えた知識や理解の統合	865	1,635	1,341	767	179
文章などを正確に読み解く力	1,449	1,873	1,051	347	66

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

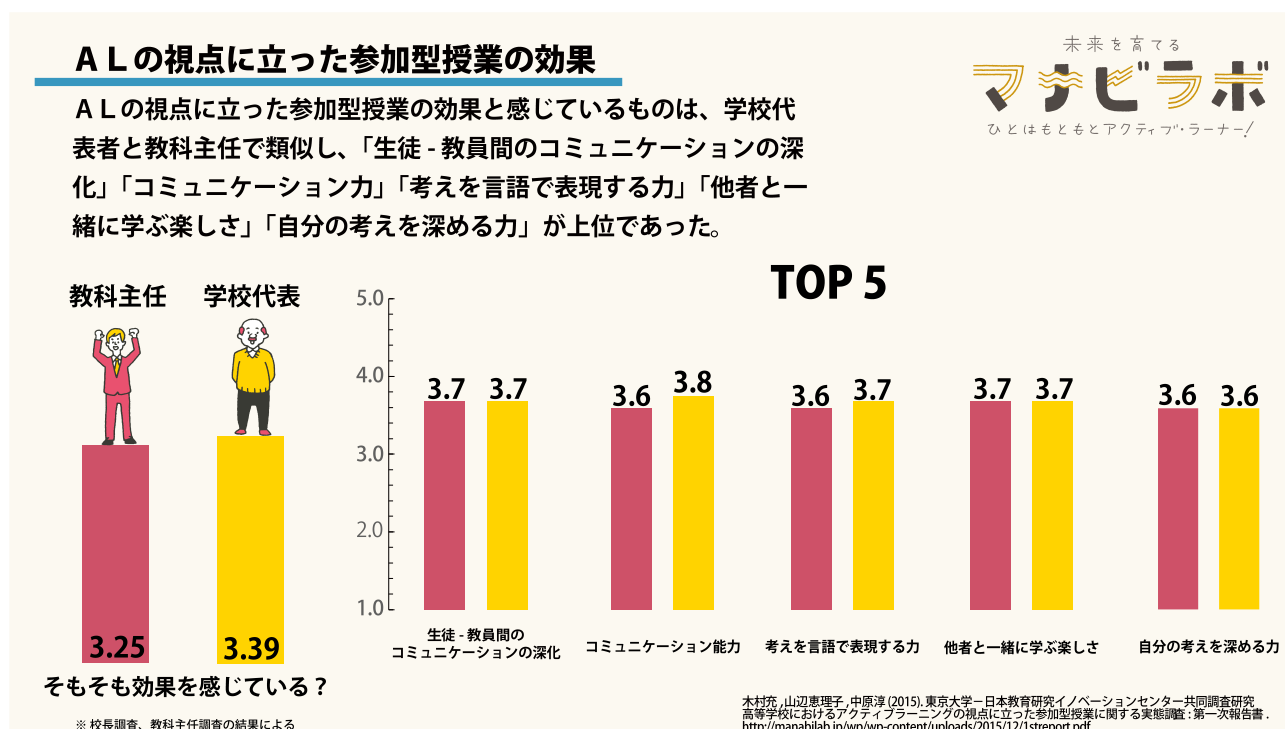
2. 教科では、参加型授業を通して、生徒にどのような力が身につくことを重視しているかについて、「1. あまり重視していない」「2. どちらともいえない」「3. やや重視している」「4. 重視している」「5. とても重視している」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 23 アクティブラーニングの視点に立った参加型授業の学習活動とねらいの相関係数

項目	思考・表現力	課題解決力	主体性	市民性	協働性	教科基礎力
理解深化型	.434 ***	.421 ***	.355 ***	.359 ***	.304 ***	.303 ***
探求活動型	.392 ***	.437 ***	.260 ***	.315 ***	.247 ***	.195 ***
意見発表・交換型	.412 ***	.364 ***	.294 ***	.264 ***	.407 ***	.259 ***
社会活動型	.258 ***	.282 ***	.176 ***	.232 ***	.129 ***	.126 ***
芸術・創作活動型	.200 ***	.168 ***	.166 ***	.253 ***	.159 ***	.127 ***

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

8. 参加型授業の効果



アクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実施により実感した効果について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。

その結果、学校代表者・教科主任ともに上位5つに挙げられた効果は同じであった。それぞれ、学校代表者では、「生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた」(M=3.76, SD=0.653)、「生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた」(M=3.74, SD=0.663)、「生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった」(M=3.73, SD=0.679)、「生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった」(M=3.69, SD=0.665)、「生徒が自分の考えを深められるようになった」(M=3.61, SD=0.65)といった効果が、教科主任では、「生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた」(M=3.73, SD=0.756)、「生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった」(M=3.68, SD=0.799)、「生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった」(M=3.66, SD=0.763)、「生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた」(M=3.64, SD=0.749)、「生徒が自分の考えを深められるようになった」(M=3.59, SD=0.737)といった効果が上位に挙げられた。

一方で、あまり効果が感じられなかったものは、両者で若干の異なりが見られた。学校代表者では、「生徒の学習習慣(予復習)が身についた」(M=3.04, SD=0.677)、「生徒の進学実績が向上した」(M=3.07, SD=0.698)、「生徒の教科における学業成績(学内定期考査など)が向上した」(M=3.17, SD=0.710)、「地域社会との交流や相互理解が深まった」(M=3.20, SD=0.863)、「生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった」(M=3.21, SD=0.610)などが、教科主任では、「地域社会との交流や相互理解が深まった」(M=2.55, SD=0.933)、「生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった」(M=2.82, SD=0.825)、「生徒の進学実績が向上した」(M=2.96, SD=0.769)、「生徒の学習習慣(予復習)が身についた」(M=2.96, SD=0.853)、「生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった」(M=2.99, SD=0.806)が挙げられた。

表 24 学校代表者によるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の効果の実感

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
思考・表現力						
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	1,319	3.33	0.710	1,005	47	2,371
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	1,323	3.73	0.679	1,005	43	2,371
生徒がこれまでにない発想をするようになった	1,318	3.22	0.642	1,005	48	2,371
生徒が自分の考えを深められるようになった	1,316	3.61	0.650	1,005	50	2,371
課題解決力						
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	1,319	3.39	0.640	1,005	47	2,371
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	1,318	3.56	0.658	1,005	48	2,371
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	1,321	3.57	0.669	1,005	45	2,371
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	1,315	3.21	0.610	1,005	51	2,371
教科基礎力						
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	1,319	3.17	0.710	1,005	47	2,371
生徒の進学実績が向上した	1,320	3.07	0.698	1,005	46	2,371
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	1,318	3.31	0.655	1,005	48	2,371
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	1,319	3.36	0.646	1,005	47	2,371
協働性						
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	1,319	3.76	0.653	1,005	47	2,371
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	1,316	3.50	0.668	1,005	50	2,371
生徒の社会性や協調性が高まった	1,317	3.49	0.640	1,005	49	2,371
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	1,318	3.69	0.665	1,005	48	2,371
主体性						
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	1,319	3.35	0.636	1,005	47	2,371
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	1,317	3.04	0.677	1,005	49	2,371
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	1,318	3.30	0.636	1,005	48	2,371
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	1,316	3.22	0.623	1,005	50	2,371
市民性						
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	1,316	3.27	0.744	1,005	50	2,371
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	1,318	3.35	0.696	1,005	48	2,371
地域社会との交流や相互理解が深まった	1,317	3.20	0.863	1,005	49	2,371
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	1,314	3.36	0.689	1,005	52	2,371
教員とのコミュニケーション						
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	1,318	3.74	0.663	1,005	48	2,371

続き

項目	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
思考・表現力					
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	58	428	747	65	21
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	128	751	415	20	9
生徒がこれまでにない発想をするようになった	33	330	860	79	16
生徒が自分の考えを深められるようになった	73	691	520	24	8
課題解決力					
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	40	502	727	39	11
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	66	652	567	21	12
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	75	648	562	25	11
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	22	333	878	67	15
教科基礎力					
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	43	304	845	93	34
生徒の進学実績が向上した	26	248	892	106	48
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	29	440	774	56	19
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	37	472	758	35	17
協働性					
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	134	759	407	15	4
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	65	579	630	31	11
生徒の社会性や協調性が高まった	57	577	649	27	7
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	109	723	457	23	6
主体性					
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	33	460	774	36	16
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	18	237	888	133	41
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	29	419	803	51	16
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	26	340	869	64	17
市民性					
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	55	393	755	80	33
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	48	469	716	67	18
地域社会との交流や相互理解が深まった	79	352	706	118	62
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	52	461	729	54	18
教員とのコミュニケーション					
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	135	731	434	13	5

(注) 1. 校長調査の結果による。

- 参加型授業の実施により実感した効果について、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
- 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
- カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 25 教科主任によるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の効果の実感

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
思考・表現力						
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	4,783	3.25	0.809	6,389	307	11,486
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	4,791	3.66	0.763	6,389	319	11,486
生徒がこれまでにない発想をするようになった	4,788	3.11	0.775	6,389	316	11,486
生徒が自分の考えを深められるようになった	4,762	3.59	0.737	6,389	314	11,486
課題解決力						
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	4,786	3.16	0.735	6,389	312	11,486
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	4,782	3.30	0.761	6,389	306	11,486
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	4,791	3.37	0.763	6,389	311	11,486
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	4,775	3.07	0.738	6,389	315	11,486
教科基礎力						
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	4,790	3.21	0.803	6,389	306	11,486
生徒の進学実績が向上した	4,778	2.96	0.769	6,389	309	11,486
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	4,781	3.21	0.775	6,389	335	11,486
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	4,785	3.32	0.749	6,389	327	11,486
協働性						
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	4,770	3.64	0.749	6,389	314	11,486
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	4,783	3.51	0.776	6,389	314	11,486
生徒の社会性や協調性が高まった	4,783	3.34	0.732	6,389	318	11,486
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	4,780	3.68	0.799	6,389	315	11,486
主体性						
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	4,781	3.31	0.765	6,389	316	11,486
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	4,778	2.96	0.853	6,389	316	11,486
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	4,777	3.16	0.740	6,389	317	11,486
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	4,782	3.10	0.743	6,389	317	11,486
市民性						
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	4,779	2.82	0.825	6,389	319	11,486
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	4,782	3.18	0.905	6,389	320	11,486
地域社会との交流や相互理解が深まった	4,781	2.55	0.933	6,389	315	11,486
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	4,773	2.99	0.806	6,389	322	11,486
教員とのコミュニケーション						
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	4,780	3.73	0.756	6,389	324	11,486

続き

項目	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
思考・表現力					
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	211	1,333	2,644	432	170
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	125	641	3,212	503	297
生徒がこれまでにない発想をするようになった	156	1,430	2,637	399	159
生徒が自分の考えを深められるようになった	205	1,498	2,525	374	181
課題解決力					
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	193	1,678	2,497	313	104
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	471	2,512	1,576	156	76
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	107	1,260	2,866	397	156
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	166	1,671	2,481	336	128
教科基礎力					
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	214	1,859	2,307	305	106
生徒の進学実績が向上した	145	1,094	2,885	466	198
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	340	2,458	1,722	173	69
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	419	2,528	1,597	154	72
協働性					
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	317	2,215	1,915	242	94
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	179	1,725	2,517	259	103
生徒の社会性や協調性が高まった	61	652	2,873	754	439
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	213	1,530	2,238	504	297
主体性					
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	69	391	2,509	922	890
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	194	1,645	2,506	305	131
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	569	2,466	1,493	159	93
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	574	2,590	1,426	126	64
市民性					
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	118	948	2,685	681	346
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	114	1,251	2,860	392	160
地域社会との交流や相互理解が深まった	94	1,122	2,912	476	178
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	84	1,047	2,975	477	192
教員とのコミュニケーション					
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	113	884	2,918	555	303

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

- 参加型授業の実施により実感した効果について、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
- 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
- カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

9. 参加型授業実施上の悩み

A Lの視点に立った参加型授業実施上の悩み

A Lの視点に立った参加型授業を実施する上で感じた悩みとして、学校代表者・教科主任ともに「授業前後の教員の負担が増加する」を最上位に挙げた。その他の要因には職階による違いも見られた。



教科主任

1 授業前後の教員の負担が増加する	3.76
2 授業の進度が遅くなる	3.73
3 授業の時間が足りない	3.63
4 生徒の学習活動を客観的に評価が難しい	3.45
5 各教員の授業進度にばらつきが生じる	3.37

負担増加を懸念!!



学校代表者

1 授業前後の教員の負担が増加する	3.75
2 必要な施設・設備が足りない	3.60
3 授業の時間が足りない	3.52
4 教員の授業スキルが不足している	3.52
5 予算が足りない	3.43

※ 校長調査、教科主任調査の結果による

木村充, 山辺恵理子, 中原淳 (2015). 東京大学-日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究
高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査: 第一次報告書.
<http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/1streport.pdf>

アクティブラーニングの視点に立った参加型授業を実施する上での悩み（困難や課題、不安）に関する各項目について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。5段階のリッカート尺度とみなして1～5点で得点化し、集計を行った。

その結果、学校代表者では、「授業前後の教員の負担が増加する」（ $M=3.75$, $SD=0.875$ ）、「必要な施設・設備が足りない」（ $M=3.60$, $SD=1.099$ ）、「授業の時間が足りない」（ $M=3.52$, $SD=1.015$ ）、「教員の授業スキルが不足している」（ $M=3.52$, $SD=0.917$ ）、「予算が足りない」（ $M=3.43$, $SD=1.083$ ）が上位に挙げられた。また、「保護者の理解が得られない」（ $M=2.22$, $SD=0.837$ ）、「生徒の理解が得られない」（ $M=2.23$, $SD=0.834$ ）、「生徒の集中力が低下する」（ $M=2.40$, $SD=0.928$ ）、「生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する」（ $M=2.46$, $SD=0.914$ ）、「参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない」（ $M=2.56$, $SD=0.901$ ）が下位に挙げられた。

一方、教科主任では、「授業前後の教員の負担が増加する」（ $M=3.76$, $SD=1.040$ ）、「授業の進度が遅くなる」（ $M=3.73$, $SD=1.102$ ）、「授業の時間が足りない」（ $M=3.63$, $SD=1.148$ ）、「生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい」（ $M=3.45$, $SD=1.054$ ）、「各教員の授業の進度にばらつきが生じる」（ $M=3.37$, $SD=1.140$ ）が上位に挙げられた。また、「保護者の理解が得られない」（ $M=2.25$, $SD=0.900$ ）、「生徒の理解が得られない」（ $M=2.28$, $SD=0.923$ ）、「生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する」（ $M=2.46$, $SD=1.005$ ）、「教員が参加型学習の必要性を感じていない」（ $M=2.50$, $SD=1.000$ ）、「教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある」（ $M=2.50$, $SD=1.095$ ）、「生徒の集中力が低下する」（ $M=2.50$, $SD=1.031$ ）が下位に挙げられた。

学校代表者、教科主任ともに、教員の負担が増加することを最も懸念している点は共通しているが、その他の悩みはやや異なり、職階による特徴が見られた。

表 26 学校代表者によるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業実施上の困難や課題、不安

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
教育効果に関する悩み						
生徒の教科における学業成績（学 内定期考査など）が低下する	1,321	2.46	0.914	1,005	45	2,371
受験に必要な学力に結びつかない	1,320	2.69	0.988	1,005	46	2,371
授業の進度に関する悩み						
授業の進度が遅くなる	1,322	3.38	1.030	1,005	44	2,371
各教員の授業の進度にばらつきが 生じる	1,320	3.18	1.028	1,005	46	2,371
各教員の授業内容にばらつきが生 じる	1,318	3.19	1.024	1,005	48	2,371
生徒の学習態度に関する悩み						
授業内容に関係のない生徒の私語 が増える	1,320	2.73	1.023	1,005	46	2,371
生徒の集中力が低下する	1,319	2.40	0.928	1,005	47	2,371
参加型学習になじめない生徒や、 ついてこられない生徒がいる	1,320	3.04	0.986	1,005	46	2,371
参加型学習をしても生徒の思考が 活性化しない	1,321	2.56	0.901	1,005	45	2,371
教員の理解に関する悩み						
教員が参加型学習の必要性を感じ ていない	1,318	2.73	0.958	1,005	48	2,371
教員間で参加型学習の是非に関す る葛藤や対立がある	1,318	2.68	1.024	1,005	48	2,371
教員の負担増加に関する悩み						
授業中の教員の負担が増加する	1,320	3.32	0.953	1,005	46	2,371
授業前後の教員の負担が増加する	1,320	3.75	0.875	1,005	46	2,371
生徒や保護者の理解に関する悩み						
生徒の理解が得られない	1,318	2.23	0.834	1,005	48	2,371
保護者の理解が得られない	1,319	2.22	0.837	1,005	47	2,371
教育資源に関する悩み						
予算が足りない	1,320	3.43	1.083	1,005	46	2,371
必要な施設・設備が足りない	1,317	3.60	1.099	1,005	49	2,371
授業の時数が足りない	1,317	3.52	1.015	1,005	49	2,371
授業方法や評価に関する悩み						
生徒の学習活動を客観的に評価す ることが難しい	1,317	3.37	0.976	1,005	49	2,371
活動に目が向き、何のための活動 なのかという目的を見失いがちで ある	1,315	2.94	0.977	1,005	51	2,371
教員の授業スキルが不足している	1,321	3.52	0.917	1,005	45	2,371

続き

項目	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
教育効果に関する悩み					
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	13	106	594	366	242
受験に必要な学力に結びつかない	29	230	549	327	185
授業の進度に関する悩み					
授業の進度が遅くなる	130	579	352	184	77
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	89	468	451	212	100
各教員の授業内容にばらつきが生じる	88	476	449	207	98
生徒の学習態度に関する悩み					
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	38	288	436	399	159
生徒の集中力が低下する	14	131	456	481	237
参加型学習になじめない生徒や、ついてこれない生徒がいる	50	437	424	330	79
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	16	159	537	443	166
教員の理解に関する悩み					
教員が参加型学習の必要性を感じていない	30	243	523	381	141
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	36	247	489	354	192
教員の負担増加に関する悩み					
授業中の教員の負担が増加する	105	505	469	186	55
授業前後の教員の負担が増加する	208	714	287	80	31
生徒や保護者の理解に関する悩み					
生徒の理解が得られない	4	55	456	529	274
保護者の理解が得られない	6	46	462	519	286
教育資源に関する悩み					
予算が足りない	245	374	488	136	77
必要な施設・設備が足りない	299	460	355	136	67
授業の時数が足りない	226	467	450	117	57
授業方法や評価に関する悩み					
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	117	548	418	173	61
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	48	337	536	282	112
教員の授業スキルが不足している	155	569	438	121	38

- (注) 1. 校長調査の結果による。
2. 参加型授業の実施によって生じた困難や課題、不安はあるか、その悩みについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 27 教科主任によるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業実施上の困難や課題、不安

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
教育効果に関する悩み						
生徒の教科における学業成績（学 内定期考査など）が低下する	4,789	2.46	1.005	6,389	308	11,486
受験に必要な学力に結びつかない	4,795	2.74	1.120	6,389	302	11,486
授業の進度に関する悩み						
授業の進度が遅くなる	4,799	3.73	1.102	6,389	298	11,486
各教員の授業の進度にばらつきが 生じる	4,788	3.37	1.140	6,389	309	11,486
各教員の授業内容にばらつきが生 じる	4,777	3.34	1.125	6,389	320	11,486
生徒の学習態度に関する悩み						
授業内容に関係のない生徒の私語 が増える	4,796	2.94	1.169	6,389	301	11,486
生徒の集中力が低下する	4,789	2.50	1.031	6,389	308	11,486
参加型学習になじめない生徒や、 ついてこられない生徒がいる	4,799	3.32	1.091	6,389	298	11,486
参加型学習をしても生徒の思考が 活性化しない	4,788	2.70	0.983	6,389	309	11,486
教員の理解に関する悩み						
教員が参加型学習の必要性を感じ ていない	4,798	2.50	1.000	6,389	299	11,486
教員間で参加型学習の是非に関す る葛藤や対立がある	4,789	2.50	1.095	6,389	308	11,486
教員の負担増加に関する悩み						
授業中の教員の負担が増加する	4,791	3.22	1.123	6,389	306	11,486
授業前後の教員の負担が増加する	4,798	3.76	1.040	6,389	299	11,486
生徒や保護者の理解に関する悩み						
生徒の理解が得られない	4,793	2.28	0.923	6,389	304	11,486
保護者の理解が得られない	4,792	2.25	0.900	6,389	305	11,486
教育資源に関する悩み						
予算が足りない	4,790	3.02	1.223	6,389	307	11,486
必要な施設・設備が足りない	4,789	3.33	1.246	6,389	308	11,486
授業の時数が足りない	4,797	3.63	1.148	6,389	300	11,486
授業方法や評価に関する悩み						
生徒の学習活動を客観的に評価す ることが難しい	4,792	3.45	1.054	6,389	305	11,486
活動に目が向き、何のための活動 なのかという目的を見失いがちで ある	4,781	2.88	1.104	6,389	316	11,486
教員の授業スキルが不足している	4,789	3.28	0.997	6,389	308	11,486

続き

項目	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
教育効果に関する悩み					
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	97	510	1,891	1,268	1,023
受験に必要な学力に結びつかない	265	948	1,684	1,089	809
授業の進度に関する悩み					
授業の進度が遅くなる	1,150	2,203	761	382	303
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	656	1,901	1,234	547	450
各教員の授業内容にばらつきが生じる	611	1,833	1,315	589	429
生徒の学習態度に関する悩み					
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	378	1,374	1,283	1,122	639
生徒の集中力が低下する	136	652	1,583	1,530	888
参加型学習になじめない生徒や、ついてこられない生徒がいる	540	1,927	1,181	830	321
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	134	814	1,901	1,348	591
教員の理解に関する悩み					
教員が参加型学習の必要性を感じていない	98	609	1,763	1,434	894
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	165	692	1,601	1,245	1,086
教員の負担増加に関する悩み					
授業中の教員の負担が増加する	598	1,463	1,506	828	396
授業前後の教員の負担が増加する	1,162	2,102	946	386	202
生徒や保護者の理解に関する悩み					
生徒の理解が得られない	47	299	1,739	1,593	1,115
保護者の理解が得られない	41	180	1,916	1,472	1,183
教育資源に関する悩み					
予算が足りない	669	892	1,821	679	729
必要な施設・設備が足りない	956	1,331	1,390	553	559
授業の時数が足りない	1,233	1,591	1,257	390	326
授業方法や評価に関する悩み					
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	640	2,026	1,267	575	284
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	265	1,217	1,620	1,031	648
教員の授業スキルが不足している	463	1,576	1,902	558	290

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 参加型授業の実施によって生じた困難や課題、不安はあるか、その悩みについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 28 教科別のアクティブラーニングの視点に立った参加型授業実施上の困難や課題、不安

項目	国語			地歴公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み									
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	1,165	2.43	0.986	962	2.55	1.004	574	2.37	1.003
受験に必要な学力に結びつかない	1,166	2.68	1.087	965	2.86	1.126	573	2.63	1.134
授業の進捗に関する悩み									
授業の進捗が遅くなる	1,166	3.72	1.064	966	3.93	1.041	574	3.64	1.161
各教員の授業の進捗にばらつきが生じる	1,165	3.44	1.095	960	3.51	1.116	576	3.30	1.188
各教員の授業内容にばらつきが生じる	1,163	3.40	1.080	959	3.48	1.097	573	3.22	1.174
生徒の学習態度に関する悩み									
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	1,165	2.96	1.188	964	2.79	1.140	574	3.03	1.198
生徒の集中力が低下する	1,164	2.53	1.052	963	2.43	1.012	575	2.50	1.027
参加型学習になじめない生徒や、ついてこられない生徒がいる	1,167	3.37	1.094	966	3.29	1.077	574	3.26	1.124
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	1,164	2.71	1.003	962	2.73	0.954	575	2.69	0.972
教員の理解に関する悩み									
教員が参加型学習の必要性を感じていない	1,166	2.41	1.022	965	2.56	0.994	574	2.59	0.995
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	1,163	2.36	1.115	962	2.60	1.079	574	2.50	1.053
教員の負担増加に関する悩み									
授業中の教員の負担が増加する	1,164	3.20	1.089	964	3.36	1.110	574	3.00	1.155
授業前後の教員の負担が増加する	1,167	3.78	0.997	965	3.85	1.005	574	3.51	1.128
生徒や保護者の理解に関する悩み									
生徒の理解が得られない	1,166	2.20	0.916	963	2.33	0.917	574	2.26	0.940
保護者の理解が得られない	1,167	2.19	0.895	962	2.31	0.903	574	2.21	0.894
教育資源に関する悩み									
予算が足りない	1,165	2.81	1.192	959	3.14	1.203	574	2.68	1.218
必要な施設・設備が足りない	1,165	3.12	1.254	962	3.48	1.202	572	2.93	1.250
授業の時間が足りない	1,167	3.61	1.135	963	3.79	1.079	576	3.42	1.212
授業方法や評価に関する悩み									
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	1,165	3.53	1.058	965	3.52	0.993	575	3.34	1.041
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	1,165	2.88	1.134	960	2.98	1.084	574	2.78	1.076
教員の授業スキルが不足している	1,166	3.34	0.985	963	3.29	0.988	573	3.16	1.038

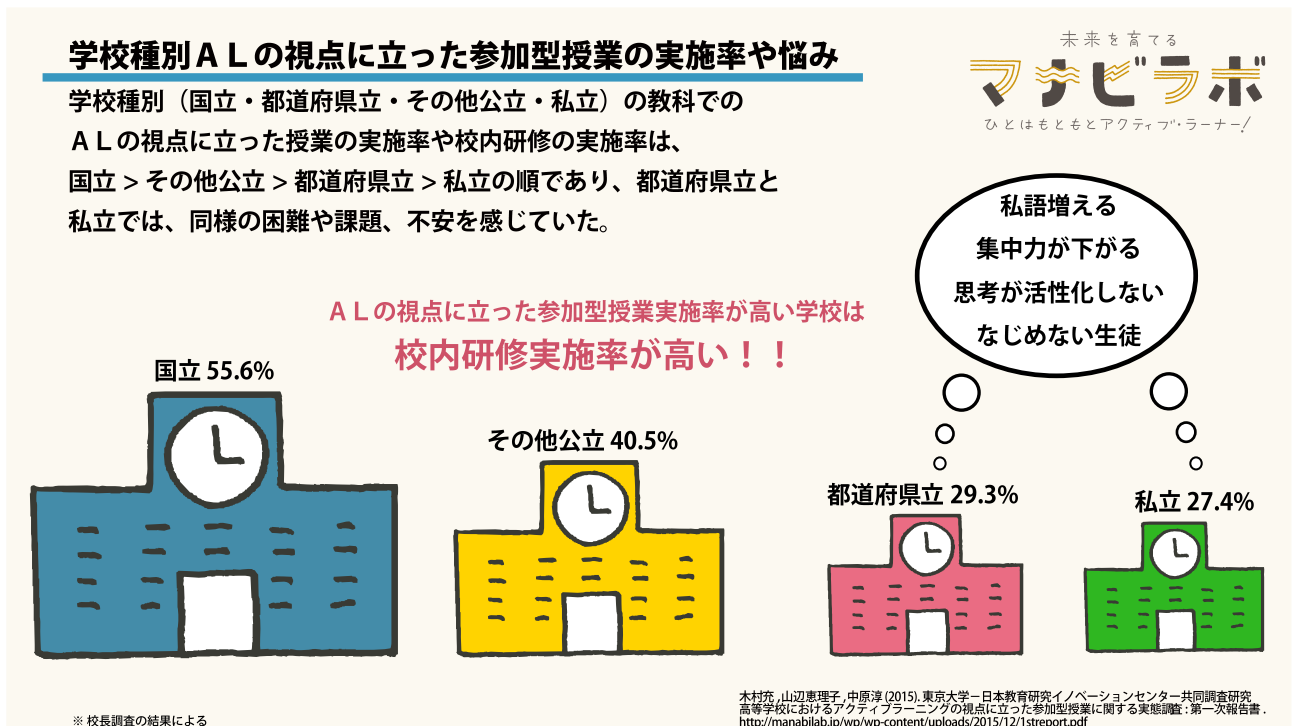
続き

項目	理科			外国語		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み						
生徒の教科における学業成績（学 内定期考査など）が低下する	954	2.40	1.003	1,134	2.49	1.022
受験に必要な学力に結びつかない	955	2.64	1.108	1,136	2.85	1.137
授業の進度に関する悩み						
授業の進度が遅くなる	957	3.71	1.157	1,136	3.64	1.092
各教員の授業の進度にばらつきが 生じる	953	3.26	1.180	1,134	3.30	1.131
各教員の授業内容にばらつきが生 じる	949	3.27	1.143	1,133	3.26	1.137
生徒の学習態度に関する悩み						
授業内容に関係のない生徒の私語 が増える	957	2.93	1.149	1,136	3.02	1.164
生徒の集中力が低下する	953	2.51	1.009	1,134	2.53	1.045
参加型学習になじめない生徒や、 ついてこられない生徒がいる	954	3.26	1.088	1,138	3.37	1.082
参加型学習をしても生徒の思考が 活性化しない	952	2.71	0.985	1,135	2.65	0.990
教員の理解に関する悩み						
教員が参加型学習の必要性を感じ ていない	956	2.53	0.978	1,137	2.46	0.995
教員間で参加型学習の是非に関す る葛藤や対立がある	956	2.48	1.070	1,134	2.58	1.116
教員の負担増加に関する悩み						
授業中の教員の負担が増加する	955	3.35	1.137	1,134	3.11	1.112
授業前後の教員の負担が増加する	956	3.85	1.033	1,136	3.70	1.050
生徒や保護者の理解に関する悩み						
生徒の理解が得られない	955	2.33	0.918	1,135	2.30	0.928
保護者の理解が得られない	953	2.29	0.885	1,136	2.27	0.914
教育資源に関する悩み						
予算が足りない	956	3.28	1.208	1,136	3.07	1.215
必要な施設・設備が足りない	954	3.54	1.186	1,136	3.43	1.246
授業の時数が足りない	956	3.87	1.095	1,135	3.41	1.169
授業方法や評価に関する悩み						
生徒の学習活動を客観的に評価す ることが難しい	954	3.40	1.094	1,133	3.41	1.063
活動に目が向き、何のための活動 なのかという目的を見失いがちで ある	953	2.82	1.083	1,129	2.89	1.117
教員の授業スキルが不足している	953	3.30	0.989	1,134	3.27	0.997

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 参加型授業の実施によって生じた困難や課題、不安はあるか、その悩みについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

10. 学校種別の参加型授業の実施率や悩み



校長調査における学校全体でのアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在（回答時）の取り組み状況について、学校の設置者別に集計した。その結果、「教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある」と回答した学校の割合は、国立（100%）で最も高く、その他公立（79.7%）、都道府県立（76.2%）、私立（72.6%）と続いた。また、「参加型学習の内容を含む行内研修を行っている」と回答した学校の割合も同様に、国立（55.6%）で最も高く、その他公立（40.5%）、都道府県立（29.3%）、私立（27.4%）と続いた。

そこで、アクティブラーニングの視点に立った参加型授業実施上の困難や課題、不安について、学校の設置者別に集計した。その結果、都道府県立や私立では、「授業内容に関係のない生徒の私語が増える」「生徒の集中力が低下する」「参加型学習になじめない生徒や、ついてこられない生徒がいる」「参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない」という回答が相対的に多かった。（それぞれ、 $F(3,1316)=7.976, p<.001$; $F(3,1315)=5.457, p<.01$; $F(3,1316)=3.553, p<.05$; $F(3,1317)=5.372, p<.01$ ）

表 29 設置主体別アクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在の取り組み状況

設置主体	学年団として参加型学習に取り組んでいる学年がある		教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある		学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている		参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
国立	5	55.6	9	100.0	6	66.7	5	55.6
都道府県立	223	13.8	1,230	76.2	380	23.5	228	14.1
その他公立	19	24.1	63	79.7	26	32.9	14	17.7
私立	130	20.8	454	72.6	118	18.9	65	10.4
合計	377	16.2	1,756	75.5	530	22.8	312	13.4

続き

設置主体	参加型学習の内容を含む校内研修を行っている		教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している		参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている		有効回答数	無回答無効回答	合計
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	度数	度数
国立	5	55.6	3	33.3	3	33.3	9	0	9
都道府県立	473	29.3	736	45.6	502	31.1	1,614	30	1,644
その他公立	32	40.5	49	62.0	31	39.2	79	1	80
私立	171	27.4	285	45.6	158	25.3	625	13	638
合計	681	29.3	1,073	46.1	694	29.8	2,327	44	2,371

- (注) 1. 校長調査の結果による。
 2. 現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

表 30 設置主体別アクティブラーニングの視点に立った参加型授業実施上の困難や課題、不安

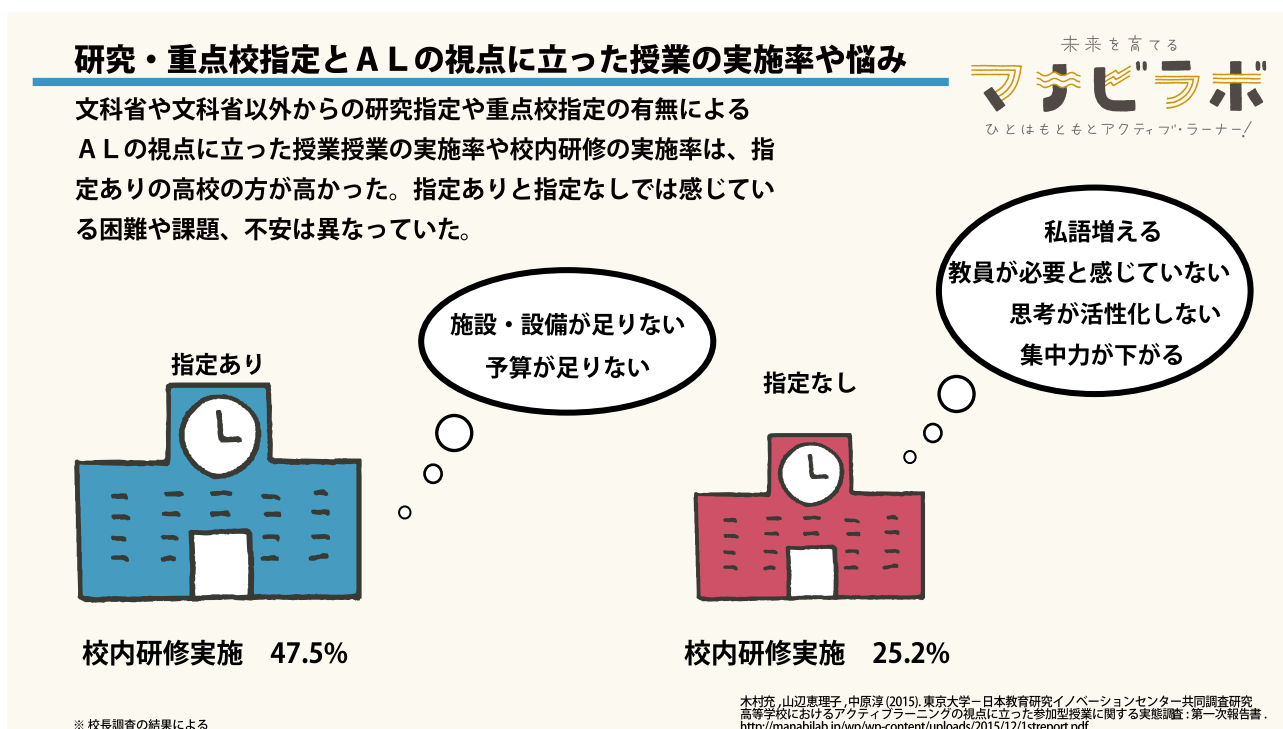
項目	国立			都道府県立			その他公立		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み									
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	8	2.13	0.641	954	2.45	0.917	57	2.39	0.881
受験に必要な学力に結びつかない	8	2.38	0.916	954	2.68	1.000	57	2.47	0.908
授業の進度に関する悩み									
授業の進度が遅くなる	8	2.63	1.302	956	3.41	1.025	57	3.19	1.076
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	8	2.25	0.886	953	3.19	1.031	57	3.07	0.997
各教員の授業内容にばらつきが生じる	8	2.00	0.756	953	3.19	1.010	57	3.07	0.979
生徒の学習態度に関する悩み									
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	8	1.75	0.463	953	2.71	1.032	57	2.35	0.855
生徒の集中力が低下する	8	1.63	0.518	952	2.38	0.927	57	2.14	0.789
参加型学習になじめない生徒や、ついてこられない生徒がいる	8	2.50	0.756	953	3.04	0.973	57	2.70	1.068
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	8	1.75	0.463	954	2.53	0.914	57	2.37	0.837
教員の理解に関する悩み									
教員が参加型学習の必要性を感じていない	8	1.63	0.744	952	2.71	0.936	57	2.68	1.020
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	8	2.00	0.926	953	2.66	1.013	56	2.73	0.981
教員の負担増加に関する悩み									
授業中の教員の負担が増加する	8	3.25	0.886	955	3.31	0.950	57	3.23	1.035
授業前後の教員の負担が増加する	8	3.50	1.069	954	3.76	0.863	57	3.54	0.946
生徒や保護者の理解に関する悩み									
生徒の理解が得られない	8	1.75	0.707	952	2.18	0.821	57	2.28	0.881
保護者の理解が得られない	8	2.00	0.756	953	2.18	0.841	57	2.32	0.827
教育資源に関する悩み									
予算が足りない	8	4.00	0.926	954	3.49	1.090	57	3.39	1.114
必要な施設・設備が足りない	8	4.13	0.991	952	3.62	1.105	57	3.53	1.167
授業の時数が足りない	8	3.75	0.886	952	3.51	1.010	57	3.65	1.026
授業方法や評価に関する悩み									
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	8	3.13	0.991	951	3.39	0.979	57	3.16	0.862
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	8	2.25	0.886	950	2.98	0.974	56	2.80	1.102
教員の授業スキルが不足している	8	2.63	1.061	955	3.50	0.906	57	3.42	0.801

続き

項目	私立			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み						
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	302	2.50	0.914	1,321	2.46	0.914
受験に必要な学力に結びつかない	301	2.76	0.961	1,320	2.69	0.988
授業の進度に関する悩み						
授業の進度が遅くなる	301	3.35	1.023	1,322	3.38	1.030
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	302	3.20	1.021	1,320	3.18	1.028
各教員の授業内容にばらつきが生じる	300	3.23	1.063	1,318	3.19	1.024
生徒の学習態度に関する悩み						
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	302	2.90	0.998	1,320	2.73	1.023
生徒の集中力が低下する	302	2.53	0.942	1,319	2.40	0.928
参加型学習になじめない生徒や、ついてこられない生徒がいる	302	3.11	1.001	1,320	3.04	0.986
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	302	2.69	0.860	1,321	2.56	0.901
教員の理解に関する悩み						
教員が参加型学習の必要性を感じていない	301	2.81	1.003	1,318	2.73	0.958
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	301	2.76	1.062	1,318	2.68	1.024
教員の負担増加に関する悩み						
授業中の教員の負担が増加する	300	3.36	0.952	1,320	3.32	0.953
授業前後の教員の負担が増加する	301	3.75	0.894	1,320	3.75	0.875
生徒や保護者の理解に関する悩み						
生徒の理解が得られない	301	2.38	0.851	1,318	2.23	0.834
保護者の理解が得られない	301	2.31	0.825	1,319	2.22	0.837
教育資源に関する悩み						
予算が足りない	301	3.27	1.044	1,320	3.43	1.083
必要な施設・設備が足りない	300	3.54	1.067	1,317	3.60	1.099
授業の時数が足りない	300	3.55	1.035	1,317	3.52	1.015
授業方法や評価に関する悩み						
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	301	3.37	0.983	1,317	3.37	0.976
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	301	2.88	0.959	1,315	2.94	0.977
教員の授業スキルが不足している	301	3.60	0.956	1,321	3.52	0.917

- (注) 1. 校長調査の結果による。
2. 参加型授業の実施によって生じた困難や課題、不安はあるか、その悩みについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

11. 研究指定・重点校指定の有無と参加型授業の実施率や悩み



校長調査における学校全体でのアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在（回答時）の取り組み状況について、文部科学省や文部科学省以外の研究指定・重点校指定学校の有無によって集計した。その結果、「教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある」と回答した学校の割合は、研究指定・重点校指定ありが75.2%で、研究指定・重点校指定なしが75.6%と、教科での実施率はあまり変わらない結果となった。一方、「参加型学習の内容を含む行内研修を行っている」と回答した学校の割合は、研究指定・重点校指定ありが36.8%で、研究指定・重点校指定なしが25.1%と、指定ありの方が高かった。

そこで、アクティブラーニングの視点に立った参加型授業実施上の困難や課題、不安について、研究指定・重点校指定の有無で集計した。その結果、研究指定・重点校指定なしの学校では、「授業内容に関係のない生徒の私語が増える」「生徒の集中力が低下する」「参加型学習になじめない生徒や、ついてこられない生徒がいる」「参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない」「生徒の理解が得られない」「教員が参加型学習の必要性を感じていない」「教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある」といった悩みを、指定ありの学校よりも抱えていた。（それぞれ、 $F(1, 1318)=15.138, p<.001$; $F(1, 1317)=11.185, p<0.01$; $F(1, 1318)=7.924, p<0.01$; $F(1, 1319)=31.178, p<.001$; $F(1, 1316)=11.381, p<0.01$; $F(1, 1316)=14.516, p<.001$; $F(1, 1316)=6.102, p<0.05$ ）

一方で、研究指定・重点校指定ありの学校では、「予算が足りない」「必要な施設・設備が足りない」という悩みを、指定なしの学校よりも抱えていた。（それぞれ、 $F(1, 1318)=8.280, p<0.01$; $F(1, 1315)=5.083, p<0.05$ ）

表 31 研究指定・重点校指定の有無とアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への現在の取り組み状況

研究指定・重点校指定の有無	学年団として参加型学習に取り組んでいる学年がある		教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある		学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている		参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
文科省・文科省以外指定あり	19	15.6	85	69.7	55	45.1	35	28.7
文科省指定あり	62	14.0	329	74.1	116	26.1	70	15.8
文科省以外指定あり	45	17.5	205	79.8	90	35.0	57	22.2
指定なし	251	16.7	1,137	75.6	269	17.9	150	10.0
合計	377	16.2	1,756	75.5	530	22.8	312	13.4

続き

研究指定・重点校指定の有無	参加型学習の内容を含む校内研修を行っている		教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している		参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている		有効回答数	無回答 無効回答	合計
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	度数	度数
文科省・文科省以外指定あり	58	47.5	71	58.2	51	41.8	122	2	124
文科省指定あり	146	32.9	240	54.1	150	33.8	444	9	453
文科省以外指定あり	99	38.5	128	49.8	94	36.6	257	4	261
指定なし	378	25.1	634	42.2	399	26.5	1,504	29	1,533
合計	681	29.3	1,073	46.1	694	29.8	2,327	44	2,371

- (注) 1. 校長調査の結果による。
 2. 現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

表 32 研究指定・重点校指定の有無とアクティブラーニングの視点に立った参加型授業実施上の困難や課題、不安

項目	文科省・文科省以外 指定あり			文科省指定あり			文科省以外指定あり		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み									
生徒の教科における学業成績（学 内定期考査など）が低下する	96	2.32	0.912	275	2.51	0.930	186	2.51	0.840
受験に必要な学力に結びつかない	96	2.53	1.025	275	2.73	1.001	186	2.65	0.954
授業の進捗に関する悩み									
授業の進捗が遅くなる	96	3.35	0.882	276	3.42	1.067	186	3.34	1.070
各教員の授業の進捗にばらつきが 生じる	96	3.01	0.912	275	3.21	1.057	185	3.09	0.980
各教員の授業内容にばらつきが生 じる	96	2.93	0.932	275	3.23	1.002	185	3.08	0.988
生徒の学習態度に関する悩み									
授業内容に関係のない生徒の私語 が増える	96	2.45	1.014	275	2.72	1.014	186	2.52	0.960
生徒の集中力が低下する	96	2.24	0.903	275	2.39	0.950	185	2.19	0.861
参加型学習になじめない生徒や、 ついてこられない生徒がいる	96	3.02	1.015	275	2.99	1.004	185	2.84	0.880
参加型学習をしても生徒の思考が 活性化しない	96	2.31	0.862	277	2.44	0.929	185	2.38	0.813
教員の理解に関する悩み									
教員が参加型学習の必要性を感じ ていない	96	2.59	0.947	274	2.69	1.003	186	2.50	0.890
教員間で参加型学習の是非に関す る葛藤や対立がある	95	2.60	1.046	275	2.62	0.994	186	2.58	1.017
教員の負担増加に関する悩み									
授業中の教員の負担が増加する	96	3.29	0.962	275	3.30	0.935	186	3.30	0.933
授業前後の教員の負担が増加する	96	3.72	0.867	275	3.74	0.934	186	3.74	0.905
生徒や保護者の理解に関する悩み									
生徒の理解が得られない	96	2.10	0.788	274	2.17	0.804	186	2.12	0.776
保護者の理解が得られない	96	2.11	0.806	275	2.20	0.840	186	2.15	0.770
教育資源に関する悩み									
予算が足りない	96	3.49	1.124	275	3.56	1.097	186	3.53	1.025
必要な施設・設備が足りない	95	3.67	1.046	275	3.65	1.150	186	3.72	1.033
授業の時数が足りない	96	3.63	0.921	274	3.58	1.017	186	3.51	1.004
授業方法や評価に関する悩み									
生徒の学習活動を客観的に評価す ることが難しい	95	3.27	0.950	276	3.34	0.983	185	3.44	0.919
活動に目が向き、何のための活動 なのかという目的を見失いがちで ある	96	2.78	0.954	275	2.94	0.976	184	2.92	0.963
教員の授業スキルが不足している	96	3.53	0.940	277	3.47	0.934	186	3.43	0.935

続き

項目	指定なし			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み						
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	764	2.44	0.925	1,321	2.46	0.914
受験に必要な学力に結びつかない	763	2.71	0.986	1,320	2.69	0.988
授業の進度に関する悩み						
授業の進度が遅くなる	764	3.38	1.025	1,322	3.38	1.030
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	764	3.21	1.041	1,320	3.18	1.028
各教員の授業内容にばらつきが生じる	762	3.23	1.046	1,318	3.19	1.024
生徒の学習態度に関する悩み						
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	763	2.83	1.030	1,320	2.73	1.023
生徒の集中力が低下する	763	2.47	0.931	1,319	2.40	0.928
参加型学習になじめない生徒や、ついてこられない生徒がいる	764	3.10	0.994	1,320	3.04	0.986
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	763	2.67	0.899	1,321	2.56	0.901
教員の理解に関する悩み						
教員が参加型学習の必要性を感じていない	762	2.81	0.950	1,318	2.73	0.958
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	762	2.74	1.030	1,318	2.68	1.024
教員の負担増加に関する悩み						
授業中の教員の負担が増加する	763	3.33	0.965	1,320	3.32	0.953
授業前後の教員の負担が増加する	763	3.76	0.848	1,320	3.75	0.875
生徒や保護者の理解に関する悩み						
生徒の理解が得られない	762	2.30	0.859	1,318	2.23	0.834
保護者の理解が得られない	762	2.25	0.855	1,319	2.22	0.837
教育資源に関する悩み						
予算が足りない	763	3.36	1.083	1,320	3.43	1.083
必要な施設・設備が足りない	761	3.54	1.100	1,317	3.60	1.099
授業の時数が足りない	761	3.49	1.029	1,317	3.52	1.015
授業方法や評価に関する悩み						
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	761	3.38	0.990	1,317	3.37	0.976
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	760	2.97	0.984	1,315	2.94	0.977
教員の授業スキルが不足している	762	3.55	0.903	1,321	3.52	0.917

- (注) 1. 校長調査の結果による。
2. 参加型授業の実施によって生じた困難や課題、不安はあるか、その悩みについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

2015年12月16日 発行

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った
参加型授業に関する実態調査 2015
第一次報告書

編集・発行 東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1